京城日報 二十日夕刊

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五拾五錢 (郵送料前金)三ヶ月金壹圓六拾五錢 六ヶ月金三圓二拾錢 ▲郵券代用一割增
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲欄內一行金壹圓 ▲三號活字一行金貳圓 ▲六號活字の一行は五號活字同樣の事
發行兼編輯人 奧田直毅 印刷人 松口政太郎
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社 電話番號 編輯部 三四五番 營業部 二二六番 振替貯金口座京城 三〇〇番

◎日露交渉開始か 露太公殿下御來朝の結果

今回御來朝の露國太公殿下の御來遊が日露兩國の親善なる關係を鞏固にすることは勿論殿下の隨員たる極東局長コザコフ氏が之に關し露國政府の重要なる使命傳達の任務を帶び既に石井外相とも數回會見し其の使命を傳達し又駐日露國大使マレーウイッチ氏も十八日幣原次官と會見し此の問題に關する本國政府の意嚮を我政府に通ずる所ありたる由なれば近き將來に於て帝國政府は本野駐露大使に電命して露都に於て外相サザノフ氏との間に正式に交渉を開始するの運に至る可しと觀測されつゝあり(東京特電)

日露新協約締結は御來朝中のミハイロウイッチ太公御歸國後露都に於て本野大使其衝に當るべしと傳へらる(東京電報)

歐洲大戰亂

▲塞王墺國官憲と密議す

塞國王ピーター一世が墺國官憲と秘密協議を遂げし結果長く墺塞兩政府間に蟠まりし誤解は一切之れを除却するに至れり(巴里電報)

▲黑山國の媾和條件

墺黑國媾和談判に於て黑山國はロウチエンサンを墺國に割讓し墺國は黑山國よりアドリアチック海に面せる一港灣を受取り之れと交換條件にて黑山國の獨立を保障すべしピーター公は獨帝を代表し媾和談判に列席すべしと(倫敦電報)

▽都市支配と男子抑留

墺國は黑山國との媾和條件の下に黑國各都市を支配すると同時に同國の男子は悉く所定の場所に抑留せらるべき旨發表されたり(紐育電報)

▲勃軍と獨墺軍の軋轢

羅馬よりの報道に據ればアルバニアに於ける勃軍は獨墺軍との軋轢の結果今や同地方を引揚げつゝあり(紐育電報)

◎孫黃提携して大飛躍

在米中の黃興は不日歸來の上孫逸仙と提携し一大飛躍を試むる事となれり(東京電報)

◎露太公御告別

露太公殿下には二十日朝御告別の爲御參內正午宮中の御催ふしにかゝる午餐會に臨ませられたり歸路は日程の一部を變更し二十七日宇品より御乘艦の事に決せりと(東京電報)

◎對支貿易激減

南支動亂の影響として對支貿易激減せり(東京電報)

◎巴運河開通期

復舊工事中の巴奈馬運河は二月中旬開通すべしと(東京電報)

◎減債還元と上院

貴族院は總豫算と追加豫算とを連帶調査の上減債基金の還元を貫徹せんとし政府の上院に施したる緩和策は全々失敗に終り形勢頗る險惡となれり(東京電報)

◎金融依然緩漫

金融界は猶依然として緩慢の狀態を持續しつゝあり(東京電報)

雜報

◎市區改正準備 五年度の計畫

大正五年度に於ける京城市區改正費は三十四萬圓を計上せること既報の如くなるが土木局に於ては新年度と共に朝鮮銀行の横より鍾路に至る道路の中央に大下水道を敷設し兩側に步道を設けて既成の南大門通り同樣の道路となす可く目下諸般の準備中なり而して昌德宮前より警務總監部に至る新設道路の買收も豫算の許す限り進捗せしむる方針にて着々調査を進めつゝありと

◎鐵橋と水道補給 竣成は大正七年度

鷺梁津、龍山間渡船場附近に架設す可き漢江鐵橋工事は昨今材料の蒐集中にて鐵材の如きは既に注文濟となり諸般の準備亦着々進捗しつゝあれば遲くとも新年度早々起工の運びを見る可し而して其竣成期は大正七年度なるが之れと同時に其橋側に鐵管を布設し仁川水道の水源地たる鷺梁津の剩餘水を引いて京城水道の不足を補給する計畫なりと

◎機織界殷賑 益買進みの傾向

米價の上騰に伴ふ地方の好況と舊年末の切迫とは外國品奔騰の結果と相俟ちて鮮內機織界の殷賑を招致し京城の如きは新春に入りて西大門外に濱陽亭製織工場の設置を見、其他の製織業者亦盛に其製織力を發揮し居れるが何れも相應の注文あるのみならず今後益買進みの傾向あり就

◎應募生一千名 教員養成所生徒

京城中學校並に高等普通學校附屬の教員養成所にては各三十名の生徒を募集す可く、中學校よりは藤井教諭、高等普通學校よりは岡校長內地に赴き東京はじめ各地に於て希望者を募集の結果總計一千餘名の應募者あり、筆記試驗に於て各六十名を選み目下其中に就きて人物及び體格試驗中にて不日終了す可く兩氏共二十日までには歸任の豫定なり、今回の應募者は斯の如き好況なりしを以て其及第者は學術は勿論人物、體格とも何れも非常の優良生なる可しと期待せらる

◎學校組合豫算と就學兒

京城學校組合來年度豫算は目下編成中なる事は既報の如くなるが其總額に於ては今年度の二十四萬六千餘圓と大差なきものゝ如く只だ例年の問題たる就學兒童の收容に就ても目下當局と交渉中なれば何んとか方法立つ可く唱歌室又は裁縫室の一部を改造するか又は三年以上の兒童を男女別に編成するか等應急の處置を移さば二部教授の如き不便を見ずして事足る可き見込なり

◎京城神社公認申請 氏子より出願手續中

京城神社の管理は京城府の所管に移して氏子組織に變更されたるも尙ほ未だ公に神社としての認許を與へられ居らず其ため本年に入りてより氏子總代の人々發起となり氏子一般の調印を得て其筋に認可を求むる手續中なれば今明週中には朝鮮寺刹令に依る神社としての認可を與へらるゝに至る可しと

◎仁川最近商況

越月引續き阪地期正米の好調なると穀價の騰貴に伴ふ地方の景氣恢復とは仁川商人の人氣を益々沸騰せしめ奧地よりの米豆廻著は彌々多きを加へたりしも不相變船腹不足の爲め移出殼の停滯を見るに至り十二月末當地米豆其他の在庫高は十七萬餘個を算し

▲一時資金の固定を氣遣ひたるも商爲替の決濟至極順調に行はれたる爲め輸移出側は前月にも增して頗る活氣を呈したり正米相場は月初め忠淸道外改良米にて十一圓八十錢見當を唱へ底意手堅き商狀を呈したるも中頃期末が變轉漸落の步調を辿りたるに連れ十圓九十錢と下押し月末に及び一二十錢方跳返したるも春待姿にて大したる變動もなく持合へり大豆は前月に續いて小緖り氣味にて米價の割に引弛まず相場は月央一時龍山物七圓見當に下落したるも年末には二三十錢方上向け牛皮は時節柄本月の出廻品は乾燥不充分にして

▲阪地筋の注文に應ずること困難なりしと內地荷問への辭ありて輸移出方面活氣なく相場も前月に比し五六圓方の下落を示せり輸移入品は綿糸界の人氣漸次見直し來りたると共に綿布も漸く氣勢を盛返し相場一、二圓方昇騰を告げ清酒類は御大典前後の盛況に加へ眼先年末節季のことゝて賣行頗る盛況を呈し砂糖類は年末贈答用として需要多く其他日用雜貨品は道に大節季に氣候が近來稀に見るの溫暖なりしと各商店の盛なる聯合歲末大賣出

▲市中の人出多からし

め一般に人氣湧立ち商勢頗ぶる殷盛を呈し數年來見ざる所の好景氣を以て越年するを得たり今仁川四銀行の預金貸出爲替受拂高及手形交換高を前月と比較し見るに預金に於ては受入高二百十八萬五千餘圓拂戾高二百二十三萬三千餘圓を增加し月末殘高に於ては三萬六千餘圓を增加せり貸出にありては貸出高百三十五萬九千餘圓入金高百二十五萬九千餘圓を增加し月末殘高に於ては四十七萬九千餘圓を增加せり爲替受拂高に於ては受入合計六十三萬六千餘圓拂出合計に於ては六十一萬八千餘圓を增加し

▲手形交換高に於ては五十一萬五千餘圓を增加せり叙上の如く預金貸出爲替受拂高並に手形交換高何れも前月に引續きて前月に比して增大せるは米穀資金及び年末金融の繁忙を告げたるを證せり

◎大坂の鮮米停滯

近年朝鮮產米逐年增加し來れるが一昨年來不景氣の影響を受け移入杜絕せるか大典後人氣の恢復せると同時に其滯米處分に熱狂せる爲め近時の朝鮮航路は米穀を滿載せざるはなく從つて龐大なる築港倉庫も其が爲め今や滿庫の有樣となり尙野天に晒しあるものも尠からざるに急速其の處分方法を講ずる必要ありて艀船仲仕を增加し晝夜兼行之が處分に腐心せるが何分百貨輻輳殊に勞力の窮乏を唱へ居る今日なれは此以上施すべき策なく貨物に對しても仲仕賃昂騰の爲め附帶運賃騰貴して回送業者の苦痛尠からず(大阪)

◎川村師團長近況

病氣療養の爲め福岡大學病院に入院したる川村第九師團長は其後の經過頗る良好にて頃日退院福岡市外小島馬場十六番地に一戶を借入れ每日通院靜養中なりと

人事消息

▲關屋貞三郎氏(學務局長) 東上中の同氏は月末に歸任す可し

南言北語

國史以來一度たりとも他國に征服せられた事はないと力んで居た黑山國も何うやら今度は散々な目に遇つたらしい▲休戰媾和を申込んで來て無條件で降服したと匈牙利首相チスツア氏が發表すると▲イヤ單獨媾和は決してやらぬと黑山國では力んで居る▲何方が何うだか判らぬけれど兎に角黑山國が墺軍の爲めに蹂躙された事は事實に違ひない▲事實とすれば聯合軍側の爲めには非常な不利益である▲黑山國はもとより一小國で云ふに足らぬけれど之れが爲め墺軍は自由に南下しアルバニヤに迫るとすれば何うなる▲伊國のアルバニヤに於ける地位は頗る危險になつて遂にはアドリアチック海の制海權の幾分も墺國の手に歸する事になる▲萬一サロニカ戰の結果希臘が獨墺側に加擔したら何うする▲結局黑山國の休戰は獨墺軍の今後の作戰に非常な便宜を與へる事になる▲オソンゾ河畔に凍り付いて居る伊軍も愈々最う動けなくなる譯だ▲其れから塞國と墺國とは兩國間に蟠つて居た誤解も協商の結果すつかり氷解したと云ふ▲之れも何んだか臭い樣な氣がする元來塞國は今回の大戰亂の發起者ではないか▲殊に何うしても誤解の氷解する事の出來ない兩國が何時の間にやらソット手でも握り合ひ相なのは第一合點が參らぬ次第だ佛軍がコルフ島の獨帝の離宮を占領して得々揚々として居る間にサロニカ軍は次第に危險が迫つて來つゝある▲支那の騷ぎも日々に大きくなつて來る歸化城附近に勃發した蒙匪は綏遠城附近迄迫つて來たと云ふ▲此連中は背後から北京を脅かさんとして居るらしい▲又た甘肅陝西には回匪が激發したと云ふ北京政府もイッヒ、、と笑つて居る譯には行くまい▲其れから山東も物騷になつたと云つて來た之れでは東西南北敵ならざるはなしだ▲串戯ぢやない困つたものだ

偶感

迎露太公有感 立花蜻洲

龍水烏山路幾重。星槎萬里不思窮。戰聳漸遠愛心切。狂賓風光向海東。

無佛 陳人

風雲變態更無窮。虎擲龍拏跡半空。自笑矮人徒觀劇。眼中老却蓋英雄。

ヒコーキ印學生帽
登錄商標
旭日昇天の勢を以て賣行つゝあるヒコーキ印學生帽
到る處の洋物店にあり
冠り心地良く丈夫なる學生間の好評沸くが如し
發賣元 合名會社 長鄉商店

內科 小兒科 入院隨意
京城日出小學校前 多々見醫院
院主 醫學得業士 多々見五郎 電話九四〇番

三重縣人會
▲日時 一月二十四日 午後六時
▲場所 花月 (會費三圓)
申込所 南大門通 丁字屋洋服店 本町 佐野金物店

寫眞
出張撮影 寫眞銅版、亞鉛凸版
最も熟練せる技術を以て最も迅速と叮嚀親切を旨とし御高需に應ず
京城日報社 寫眞製版部

瀨戶醫院 外科 皮膚科
旭町二丁目(舊三丁目)
醫學士 瀨戶潔
(電話二四九八番)
診療夜九時まで

謝近火御見舞
一月十九日 京城壽町 二宮産科婦人科醫院

最新刊
澁川玄耳先生著
中村不折畫伯口繪 名取春仙畫伯裝畫
三五判布級 壹千頁 特製函入
正價壹圓卅錢 小包送料八錢
縮刷 日露戰役 日獨戰役 從軍三年 小敵大敵
德富先生は國民新聞に『從軍三年』を評して曰く
著者は筆を假せて從軍したる者にあらざりき。略、其軍略や戰術の如きは彼が自から關知する所にあらず。略、著者の筆鋒は犀利なれども其觀察眼は更らに犀利也。其の興趣の多角的なると同時に其の同情の範圍又た頗る狹隘ならず。略、加之著者に一種の滑稽的趣味ありて如何なる沈痛なる場合にも俳味禪味を加味せざるなく、爲めに我をしてすれば人々の頭痛を呵々大笑せしむ。此書は戰役側面觀として最も實質あり興趣あり價値あるの一と信ず
『小敵大敵』は山東に於ける著者の感想にして『從軍三年』とは別個の地に立てり
發兌 東京日本橋區本町一丁目 甲陽堂 振替東京五〇六一 東京神田錦町 誠文堂 振替東京二六九四

新春家庭に於ける精神的修養
婦人の生涯 高島平三郎著 價一圓四十錢 送料八錢
兒童保護の新研究 岡村準一著 價二圓二十錢 送料十六錢
家庭及家庭教育 高島平三郎著 價九十五錢 送料八錢
奥様とお女中 福鎌恒子著 定價六十錢 送料六錢
小兒の育て方 田結宗誠著 定價五十錢 送料四錢
小供の生活 水野義三郎譯 定價五十錢 送料四錢
教育に應用せる兒童研究 高島平三郎著 價二圓八十錢 送料十二錢
精神修養逸話の泉 高島平三郎著 價一圓 送料八錢
一日一善 山本瀧之助著 價四十五錢 送料六錢
一日一善日記 後藤靜香著 價十五錢 送料四錢
田園趣味暦 天野藤男著 價十錢 送料四錢
涙痕 岡田治郎作譯 價一圓 送料八錢
發行所 洛陽堂 東京市麹町區平河町五丁目三六 振替口座東京一九〇二四番

●朝鮮人の食物研究
意外に面白い材料が多くある

元始的生活の時代は何れの國、何れの人間も生活が極めて單調で野生物を主食物として居つた、併かし人智開發と世の進化に伴つて食物も漸次變つて行くものであるが、茲に

朝鮮人間の細民に

就て取調べて見るに其食物中には內地人の豫想し難いものがある、一般ではないが朝鮮の田舍の地方に行くと今日でも土を食つて居るものがあるといふことは曾つて本紙に報道したことがある、此の朝鮮人の食べる土は內地でも能く見る陶土か粘土樣の極めて質の柔かな粉末になり易いもので試みに其土塊で黑板などに字を書いて見ると恰かも白墨のやうに明かに使はれるものである、蠟石の樣な白色を呈して居るが稍褐色を帶んで居るのもある、是等食用になる粘土の朝鮮に於ける

重なる產地として

は全羅南道が頗る多く同道和順郡西面佳林里の山野、同道高麗郡南興面東林里松谷案の山中同道麗水郡召羅面九適島內、同道羅州郡鳳凰面巨城里裏明旗埠、黃海道瓮津郡長峴洞の西北約二里茄川面海內洞の海岸附近江原道寧越郡西面灘里月來山麓及び同面龍上里無名山麓、同道三陟郡遠德面梧底同道德山等であるが、尚平安北道にも所々にあるといふ、是等の粘土は食用として無害であるかといふことに就て警務總監部の衞生試驗室では精細に

分析試驗をやつて

見た其含有物量は次のやうである

珪酸五六、四〇、礬土二七、八一、酸化鐵四、四二、石灰四、六九、苦土七二、加里四、七〇、曹達一、二三

元來此粘土は長石の如き珪酸鹽類が漸次自然の風化作用に依つて長年月の間に水及び炭酸の浸蝕を受けたる結果出來上つたもので、內地の尾州瀨戶に產する陶土と同樣の物であるといふ、其れで其粉末は撒布劑か或は磨粉を製するに好適のものであるらしいが併し精製したものでないと立派なものとはなるまいとのことである、素より是を食料に供するには

衞生上直接の害毒

は無いとしても間接に害となり消化機能を鈍らせることが無いとも限らない、尚此外に細民の食つて居る草根木皮は夥だしいものである、殊に草花の類が甚だ多く一例を擧げて見るとヒルガホ、カハラサイゴ、ヒレアザミ、ギシ〳〵、キジムシロ、オーバコ、水オーバコ、スミレ、ウツボ、ヤマホグチ、ツルウメモドキ等を初め二百種以上ある是等の草花類は根を食ふもあり、葉を食ふもあるが概して葉ツ葉を茹るやうにし

之に味噌醤油で味

をつけるのである、尚其他に櫟の實を粉にして麥粉や米粉に混入して食ふもあり、平北渭原郡地方のものは赤松のあま肌を削り取り焚灰で煮上げ之を十日間も水に浸して置いて乾かし粉にして他の物と共に食つて居る、又全北の或地方では稚い松葉の上下を切り落して乾燥し其れを粉末として米粉或は大豆粉に混同して食つて居る、又咸北の會寧郡八乙面地方では木賊を乾燥し粉となして麥粉に加へ餅に作つて食つて居るものもある、是等は內地人の一寸感付かぬ食物の一つであらう

御題詠進歌

天地とともにさかゆるすめ國はとつくに人もあふきまつらむ　大勳位依仁親王妃勳一等 周子

ちはやふる神代ながらに日のもとの國のさかえは限りしられず　臨時神宮祭主勳一等 多嘉王

年立ちていはふもうれし大君のしりそめたまふ國のさかえを　勳一等成久王妃勳一等 房子內親王

年ごとにひろくなりゆくあし原の瑞穗の國のさかえをぞ思ふ　大勳位恒久王妃勳一等 昌子內親王

とこしへにみをやの神のまもります大日のもとの國はゆるかず　樞密顧問官正二位大勳位功一級公爵 臣源朝臣有朋上

なみ風もおだやかなりとわたのとの人そよりくる皇御國に　宮內大臣正三位勳一等男爵 臣藤原朝臣敬直上

日のもとの國のみはしらひさすちに萬代ふともゆるきあらめや　樞密顧問官勳一等子爵 臣藤原朝臣清綱上

天の下てらさぬくまもなかるらむひいつる國のおほみひかりは　宗秩寮總裁從一位勳二等侯爵 臣源朝臣通久上

題者點者

かしこしや神代ながらにすめらぎのみいつかゞやく日の本つ國　讀師 掌典長正三位勳四等公爵 臣藤原朝臣道實上

西のうみは波たちさはく世にもなほひとりしつけきあし原の國　東宮侍從長御歌所長從一位勳四等子爵 臣藤原朝臣爲守上

こし方のためし思へはいつくまでこすゝみゆくらむ國のちからは　講頌 從二位勳三等伯爵 臣源朝臣重朝上

あらたまの年のはじめにいはふなり神代ながらの國のさかゑを　講頌 從五位伯爵 臣藤原朝臣重行上

とこ〳〵に光もそひてあまつ日のもとつみ國そいやさかえける　講師 正三位勳四等子爵 臣卜部朝臣行德上

たゝかへる西のくに人いかに見む波風たゝぬやまとしまねを　講頌 正三位勳四等子爵 臣藤原朝臣以季上

ゆすたけの君のめぐみに民草もしけりさかゆるあしはらの國　發聲 從三位子爵 臣藤原朝臣基哲上

あたらしき御代を迎へてうら安の國のさかえそいやまさりゆく　奉行 御歌所參候從三位子爵 臣藤原朝臣德長上

うごきなき世のためしにはとつ國もやまとしまねをまつや引くらむ　奉行 御歌所參候正四位子爵 臣藤原朝臣最弘上

ひとすちの君しろしめす日のもとの國にくらへむ國あらめやも　講頌 從四位子爵 臣菅原朝臣長言上

君やすく民もさかえて日の本の國のひかりそいやまさりける　講頌 正五位 臣源朝臣重明上

あまてらす神のみすゑのしろしめすわかすめらぎの國は動かし

●大隈首相襲擊者遂に檢擧せらる
取調の結果直ちに收監

去る十二日夜東京牛込區山吹町の街路に於て暗中に大隈首相の乘れる自動車を待受け二個の爆彈を投げつけ天下の耳目を聳動せしめたる不逞の犯人四名は遂に十八日朝に至り檢事局及警視廳の大活動に依り逮捕され潮檢事判事尾原檢事の取調を受けたる結果爆發物取締規則違反として十九日夕刻東京監獄に收監されたり其氏名左の如し

下谷區櫻木町 福田和五郎(四七)
府下下澁谷六百十番地 鬼倉重次郎(二〇)
芝區明船町十九番地烏羽館方 和田政吉(六)
赤阪區田町七の十三飛田卓治方 下村宇太郎

右の內和田下村兩人は下手人たるべく福田鬼倉は其を幇助したるものゝ如し(東京特電)

●吉林知縣の狼藉
邦人の家宅を捜索し金錢を奪ふ

吉林盤石縣日本人片山外一名營業の目的にて家屋借受準備中同縣知事は突然數名を率ゐ邦人の居住を拒絕し且つ家宅に侵入して捜索し官帖一萬餘吊を持逃げたり この訴へに接し吉林領事館より支那官憲に交涉したる結果調査の必要ありとし吉林縣知事は通譯を隨へ統管は警官一名と共に調査の爲十八日該地に急行せり(長春特電)

●神戶專賣支局全燒す

十九日朝神戶專賣支局本館其他二棟を燒して全燒せり損害五十萬圓以上なり(大阪特電)

●俳優秋月桂太郎死去

新派劇の重鎭秋月桂太郎は豫て病氣中の處十九日死去せり享年四十六歲(大阪特電)

●大相撲取口評

△大鳴門に宇都宮 從來互ひに一勝一敗の好取組なり立上り双方烈しく突合ひ鳴門の更に突進まんとする鼻を宇都叩いたれば鳴門泳いで立直らんとする遑もあらせず突出したるは鳴門お株を奪はれたり鳴門は突いて叩くが得意なれど宇都其先きを制したるは珍らしく巧者をしたるものかな

△對馬洋に金の花 金の花は金病後とは言へ元來精悍の力士立上るや左を差して一氣に寄らんとし對馬小手投を打つて防ぎしも金尙ほも勇を鼓して寄り進み而かも外掛けに靠れ込まんとせしは申分なき取口なりそれを危ふく土俵際に打遣りたるは對馬が腰の廣き御蔭にて金は正に相撲に勝ちて勝負に負けしもの些の遺憾なし

△鳳に綾川 一昨年五月場所の初顏合せに鳳首投にて破れ昨年一月は掬投にて鳳の勝となり一勝一敗正に當日が決戰の取組なり鳳前日の兩國を破つて聊か氣を直し左四つとなるや鳳初めて持前の出足を利用し寄り一文字に寄るを綾こゝぞと得意の首投を打ち鳳再び同じ手に敗れたるは氣の毒なり吾人は鳳此場所の不成績に付ては最早何事も言はず只同情を表し置くと共に力士たるもの技倆の錬磨と共に精神の修錬も亦必要なる事を附言す

△石山に兩國 精悍の石山兩國の俊敏を向ふへ廻して右差し疾風の如く寄り進み外掛けに靠れんとするを兩の二枚腰ウンと堪へて押し戾し右四つとなりたれば正に勝敗地を替へたりと思ひきや石左右の上手を引くや煽り立てゝ寄り切りたる元氣稱すべし此相撲石初めより勝氣滿々既に氣に於て勝ちたり

△西の海に玉手山 西に取て玉手は苦手なり從來引分以上を取りたる事なし立上り左四つとなり玉得意の喉下りに行かず猛然寄り立つる出鼻を下手投にて勝ちたる西は流石に老巧玉としては聊か敵を見ざる用意を缺きたらんも元來段違ひの力士是非もなしそれにしても西今場所の相場振り些の危氣なし或は再び横綱問題起るやも知れず後僅かに三日大に自重を望む

●撞球選手大會
本月下旬開催

京城に於ける撞球會は近來著しく發達を示せると同時に又一面忌はしき弊風あり多少心ある者をして顰蹙せしめつゝありしが右に付きその病弊を除き斯界の廓淸刷新を期するを目的としその第一步として從來市中に行はれつゝある競技會と全然其の趣きを異にし然かも巧利的ならざる憤純的の一大競技會を催ふす計畫本月末頃事實となつて現はるべきが同會は選手大會と稱すべく隨つて參會資格者は絕對に持點百點以上の者に限り會費は金五圓にして出直し共十回限りとして賞品には一等金側懷中時計一個(記念彫刻入)二等銀側七寶懷中時計(同上)三等純金メダル一個(同上)其他五等まであり副賞品の寄附も多數あり然して今回は愛球家の懇親を結ぶの意味より全鮮に於ける高點選手の參會を歡迎する由

●腐敗酒にウイスキイを混入して賣る

京城黃金町四丁目酒商井上庄太郎は以前腐敗せる酒類を販賣せることあり當時所轄本町署より該酒類三石餘を放棄せしめたることもあるに最近に至り又復腐敗酒にウイスキーを混入して新らしきレッテルを貼り鮮人を使役して發賣せしめ居るを本町署に探知せられ此程該酒は悉く引揚げられて目下有害物の試驗中

●何んな罪が一番多いか

大正四年中京城鍾路警察署に於て取扱ひたる犯罪事件の檢擧成績を聞くに犯罪發生二千二百九十五件是に對する檢擧一千七百九十九件を示せり而して檢擧事項中最も多きは窃盜の九百二件にして詐欺の三百三十二件橫領の二百五十三件是に次ぎ其他傷害の七十七件文書僞造の二十七件猥褻姦淫重婚二十三件略取誘拐等重なるもの其他阿片煙に關するもの通貨僞造、過失傷害、放火、失火、住居侵入、印章僞造、僞證、誣告、賭博、贓物、殺人、墮胎、遺棄、逮捕及び監禁、脅迫、強盜、贓物、毀棄隱蔽、森林令違犯、保安法違反、藥品取締違反、名譽及び信用に關する罪等にして犯罪の發生に伴ふ檢擧率は大正三年度より頗る好成績を示し居れり

●癩病の二少女
老爺を殺す
恐ろべき迷信

全南光州不動町小市場に於て十七日午後六時頃年齡五十歲位の乞食一名死亡し居るを其筋にて檢視を遂げ全く營養不良にて斃れしものなりと判明したるも臀肉五寸位斬り取られ居るより探偵に手を盡し終に附近を徘徊しつゝありし乞食女金德五(十五)許默述(十三)の所爲と知れ其筋に引致されしが人肉は癩病に効驗ありとの迷信より斯かる慘事を行ひしものにて其の肉は未だ食用せず市場內の藥小屋中に庖丁と共に隱匿しありしと

●三つ兒を產む

二兒の出產は世間往々あることなれども三つ兒の分娩は珍らしきことなるが慶北盈德郡丑山面丑山洞十二統二戶の劉鶴善妻金與守(四十)は本月七日午前十一時頃三つ兒を出產し其の中一名は女兒なりしも卽時死亡し男兒二名は頗る健全に生育しつゝあり

春場所星取表 (○勝●負×分△預)

東の方 勝六十四負四十七
大錦、西の海、鳳、對馬洋、兩國、綾川、小常陸、驛迦山、九州山、岩木山、紫雲龍、四海波、鳴門洋、大ノ川、能登ヶ崎、宇都宮、源氏山、朝日嶽、宮城山、逆鉾、緋縅、江戶錦

西の方 勝三十二負五十六
太刀山、朝潮、玉手山、大蛇潟、金の花、浦の浪、大鳴門、黑瀨川、綾浪、石山、土州山、千年川、眞砂石、稻の穗、八甲山、館山、玉椿、柏戶、寒玉子、小野崎

▽綾瀨川を觀る

聞かば敢へて聽くと言はない、聞るといふ。十九日の初日の晚、少しばかりの閑を偸んで有樂館の綾瀨川へ行つてみる。東京相撲の關脇より宗旨違ひの浪花節語りとなる。角界の橫綱を期せずして所謂浪界の取的となれる彼、徒らに奇を好む世に阿る氣か、別に何か心願のあつてか、いづれにしても二三風變つたところが取柄なり呼物なり。板の貫祿した振舞さざる住しとして彼に望む然しながら浪花節に有勝な嫌にぎこちない金沿丁度浪速の安高丸さいふな口演中、道かにお角力さんの浪花節、三味して聽かんには苦々素人耳の芸惑尙ほ之れが許さぬものがある。會話にまつては如何にせん得意りのズー聲が災ひしてチャキ〳〵の江戶ッ兒の齒切よきさは同一の比ではなけれど芸處がタレそのお角力節といふべきもの、節は默東節といふべきものか、道かに一家を成して居るとも言へる。口演中に折々踊りに替つて角力の內幕を素破拔く、これが餘稽殘躍、それに語物が近世力士傳とある丈、すべて活きて來る。これが亦一趣。餘興に橫綱こそ張らぬが橫綱土俵入の型に麗のいゝ櫻色の男性美を見せ、更に『わしが國さ』の地囃子に連れて劍舞に舞踊を挿き交ぜた樣な恰好で角力四十八手の惡技を見せる。本場所の大相撲に熱中してゐる今の際と卵な此の方に盛んな拍手を浴びせる。二度見る人は何やらだが一度も見ない人は話せない人の部に屬すると言つて置く(太郎星)

△壽座 二十一日の替り狂言は大阪八郎兵衞大序より甚鉄まで中老後の政岡綱村別れ、切源平布引瀧實盛物語にて主なる役割左の如し 政岡、古手屋八郎兵衞(梅三郎)お妻、小萬(梅若)矢島才兵衞綱村(雷三郎)丑松瀨尾十郎(一梅藏)ぼんやり輿平次(光十郎)伊達民部(嘉太郎)諸齋實盛、香具屋彌兵衞(長太郎)

△壽館 燕左衞門五日目の語物は左の如く二十日より五十錢三十錢十五錢五錢に値下したり 水戶巡遊記(むら臣)五郎正宗(北海入道)嶽士銘々傳(山本松子)伊達綾子錦染纎の白糸(長國)二席(燕左衞門)

●少女馬蹄に斃る

馬車に使役する巨大なる裸馬に跨りし[illegible]は此の瞬間に演せられたしと見るや驚いて馬を路傍に乘捨てくる[illegible]ろ慘狀に驚倒せんばかり狂氣の如く何處へか逃走し今に行衞不明なりと[illegible]生活し[illegible]れる內大正三年十二月[illegible]人知れず眠迫窒息死に至らしめ屍體は附近の山中に埋沒したることを此[illegible]寄りたるも拒絕され[illegible]つ右の次第を[illegible]奇姓女より鳳九に告げたるより[illegible]大に怒み客臘五日夜鳳九宅の傍[illegible]

天気 ▲晴れ一時曇り (二十一日午後六時迄)
日出 七時四十五分 日沒 五時四十四分

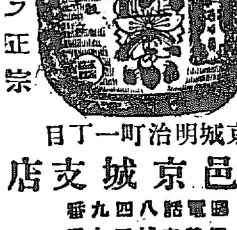
現行法規綴
特價 拾五圓 正價 金貳拾五圓 總紙數 二萬五千餘頁
▲但し一千部賣切後は正價に復す▲五部以上特價の五分引十部以上一割引
▲郵送荷造費共內地一圓六十二錢鮮滿三圓臺灣二圓五十五錢を要す
名古屋市西區傳馬町三丁目 電話二一三二 振替大阪二九八〇二
現行法規加除綴 每月二回刊行紙數平均三百頁以上 年額約七圓 郵稅不加
現行法規出版社
●支局開設 支局主任希望者は此際至急申込あれ

コドモ 編輯顧問 高島平三郎先生 ◎二月號出來 本號よりは面目を改めて三色版、オフセット版、石版印刷の美しき繪を加へ又紙質をよくし頁數を增し諸先生の面白くて爲になる讀み物を澤山に載せてあります 東京小石川林町 コドモ社 振替二七九六三番
(見本中越次第送呈)一冊十錢、郵稅五厘、六冊郵稅共五十八錢、十二冊郵稅共一圓十五錢 定價、良友、コドモ共通 良友は郵稅一冊一厘

まじめで平易で面白い畵雜誌 幼年雜誌 良友 尋常小學程度の最も好い讀物 (最寄書店になくば本社へ申込みあれ御注文は振替貯金最も可)

明治名詩鈔 夢香、碧堂 東郭、九峰 石埭、霞庵 學圃、江舟 竹磎、裳川 香國、禾原 —二十二家選— 容塘、槐南、春濤、種竹 寒齋、蒼海、三洲 黃石、湘南、鴎所 の傑作無慮 千餘首を壹收む 返點 註釋附 價八拾五錢 稅八錢 東京神田小川町 文會堂 振替東京三五一二

天然葡萄酒 天然葡萄酒は貧血虛弱者並に婦人產前產後の營養料として全國各病院大醫の常用を蒙る生葡萄酒也 白札、銀線、金線、紺札、冠印、金札、六種共全國の信用ある藥舖和洋酒店食料品店並に洋物店に有之御最寄にて御購求奉願上候 發賣元 東京市京橋區鎗屋町 振替口座東京七五五八番 長井越作 關西代理店 大阪東區道修町 振替大阪八六七 藥種商 田邊五兵衞

比較は最良の撰擇法なり サクラ正宗 サクラ正宗

京城明治町一丁目 山邑京城支店 電話八四九番 振替京城五七番

恩給立替貸金 黃金町通櫻井町入軒西四ツ角 元祖 博多屋本店 電話二三二番

貯蓄預金 元金百圓ニ付日步壹錢四厘 金壹錢以上何程ニテモ御預申候 株式會社長崎貯蓄銀行代理店 株式會社十八銀行京城支店 京城黃金町 電話四二〇番 振替貯金口座京城八一四番 同 龍山出張所 龍山旭橋町 電話二八番

諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

途中山停車場附近にて[illegible]後方より當地藏財洞二十九番地荷馬車挽昌月の倅用吉が自家所有の荷[illegible]未だ情歉き少女何かは以て耐るべき[illegible]聲をも得立てず悶絕したれば傍に在[illegible]病院に擔ぎ込み應急手當を加へたるも僅かに虫の息を爲すに至りたるのみにて午後六時全く絕命したるが一方犯人用吉は末子を乘馬の蹄に掛け[illegible]

京畿道利川郡清渼面長湖院里の趙洪[illegible]鍋（三八）の內縁の妻となり兩人は前記長湖院里に同棲し日稼ぎをなして辛[illegible]相談の上右[illegible]の所持金てもなきより茲に兩人[illegible]殺害せんと昨多[illegible]

●戀の放火

全南潭陽郡大德面新里張恭容（三二）は豫て同里呂鳳九妻寄姓女に懸想し去る頃同女に言ひ[illegible]加へんには一[illegible]人居宅を全燒せしめたり[illegible]兵所にて放火なることを探知し其後犯人の檢擧に努め居たる內右の次第判明し數日前遂に逮捕せられたり

●慶北諸税成績

慶尙北道に於ける昨年十二月十五日現在調査による諸税成績は市街地税調定額二萬四百九十二圓收入一萬八千五百五十六圓にして九割五厘の割合戶税調定九萬六千八百五十八圓收入九萬六千七百九十七圓にして九割九分九厘の割合家屋税調定一萬五千六百九十圓收入一萬四千七百卅三圓にて九割三分九厘の割合普通地税調定百廿七萬八千六百七十八圓收入六十五萬一千三百四十八圓にて五割九厘の割合酒税調定六萬七千百九十八圓收入六萬六千八百二十九圓にて九割九分四厘の割合煙草税調定五萬一千百六十一圓收入四萬七千四百十一圓にて九割二分六厘の割合鑛税調定一萬七千二十二圓收入八千八百四十四圓にて五割一分九厘の割合雜税二千二百四十五圓收入一千八百三十四圓にて八割一分六厘の割驛屯賭收入調定十一萬八千五百六十六圓收入十萬五百五圓にて八割四分七厘の割合にて地税の割合五割九厘は調定額は第一第二期合計にして收入は第一期分なるが爲め而して地税第一期完納郡は慶山、永川、盈德、英陽、靑松、義城、軍威、漆谷、金泉、尙州、醴泉、榮州、奉化、聞慶、星州の十五郡なれば槪して成績良好なりと

●製綿奔騰趨勢

歐洲戰亂の餘波を受けて大邱地方に於ける輸入綿は昨夏以來奔騰の氣運に向ひ昨年七八月頃の價格に比すれば米綿ミツトリングは百斤に付き十二三圓ボンベー綿は八九圓騰貴し其れに連れて支那綿も亦た八九圓の騰貴を見尙ほ時季なれば此處三四箇月は多少の高價を唱ふ可く最近一月十五日の情報に依れば天津中袋二十七圓、白梅中袋二十七圓二十五錢、南島中袋二十六圓五十錢、寧波小袋品切因に綿絲も從つて高價を示し鐘紡二十手百三十四五圓、攝津紡績同二十手百三十二圓、富士紡績百二十二三圓、合同紡績百二十圓內外なりと

●木浦棉花近況

本月十六日以降末日迄の棉花相場は道廳より指定し來れるが之に依ればミツドリング大阪相場四十一圓十錢にして前値より九十錢の昂騰を示し新標準價に依る木浦實棉相場は左の如し

一等十二圓四十八錢七厘、二等十一圓二十三錢八厘、三等八圓七十四錢、四等六圓二十四錢三厘

因に昨今の廻著は著しく減少し品質に至ても終季に入れる爲劣惡なりと尙ほ全南道內の棉花共同販賣所は各府郡を通じて百二十八箇所なるが之等の販賣所が去十二月末日迄に販賣したる實棉は合計一千四百萬斤にして之れを昨年の總販賣高六百十萬斤に比すれば數量に於て二倍の增加價格にては約三倍の多額なりと又た船腹不足の爲め之が交涉に苦慮しつゝありし三棉業會社にては漸く汽船會社と交涉出來去る十六日尼ケ崎汽船日滿丸の廻航あり尙ほ商船宮島丸の入港により前者に繰棉六百七十個種子四千八百個後者に繰棉一千二百個種子七千二百個を移出したるも尙ほ停滯多く會社側は大に苦慮し居れり

●全北漁業成績

水產組合全羅北道支部に就き客年中に於ける漁業成績を聞くに內地人出漁船數二百四十四隻從業人員七百五十六人此の漁獲水揚總額十三萬三千七百五十圓にして鮮人側漁船は百二十隻從業人員四百人此の漁獲水揚總高三萬千三百五十圓通計水揚高十六萬五千百圓となり此れを前年度水揚總高に比する時は二千七百五十五圓の減收を見たる譯なるが漁獲高に於ては前年度に比し著しき增獲を見たるも魚價低廉なりしを以て水揚金高に於て反て以上の如き減收を見たる次第なりと

●群山兩市場賣揚高

大正四年度中群山兩魚市場に於ける水揚金額を聞くに群山水產株式會社の魚類賣揚高は六萬八千四百零八圓二十錢にして佐賀縣出漁者共同販賣所の魚類賣揚高は二萬零四百零四圓三十八錢にして兩市場水揚總額を合計する時は八萬八千八百十二圓五十八錢となり前年度に比し一萬二千五百三十三圓四十二錢の減少を見たりと

●全羅南道より

京城衞戍病院長佐藤一等軍醫正は衞生狀態視察の爲十七日夜光州に著十九日午前十一時小學校に於て衞生講話をなし即日全州に向け出發▲四國人會　光州在留の四國の出身の有志は十八日夜北村樓にて縣人會を開催出席者廿餘名にて盛會を極む▲警務部長　巡閲警務部長浦野丈藏氏は井上主計高橋警部等を隨へ部隊警察巡閲の爲め十七日和順寶城長興康津海南の各郡に赴きたるが三十日歸來の筈▲堤堰修築成績　大正四年度に於ける管內の堤堰修築豫定は一百個所にて內竣工せしもの七十四箇所工事中のもの五十三箇所あれど悉く年度內には完成せしむべしと

●群山より

客年十二月中旬群山米穀當業者發起となり群山糯叺購買組合設立認可申請を爲したるは既報せる如くなるが一月十一日附を以て全羅北道廳より愈々設立の認可を得たり▲小學校の義士會　群山公立尋常高等小學校に於ては本月十八日は即ち舊曆十二月十四日にして赤穂の浪士の吉良邸討入の日に相當するを以て當夜午後八時より同校尋常五年以上の男生を講堂に集め義士に關する講話を爲したり▲東亞の景品抽籤　東亞煙草群山販賣所管內にては客月八日より大景品附賣出中なりしが一月十四日を以て豫定の賣出を終り十七日午前九時より群山商業會議所內に抽籤場を設け永田販賣所長臨席商議會頭警官新聞記者等立會抽籤を執行せり

●木浦雜信

商議所令に基き新たに設立すべき木浦會議所定款は既報の通り十七日役員會の議に附したるが種々協議の結果原案は從來の階級選擧を廢し且つ單純となしありしも斯くては從來に比し餘りに懸隔あり自然實情に副はざる虞なきを保せずして階級は之を廢するも議員定數の半數を連記と爲すに改め又會員資格は原案に於て木浦府營業税年額十圓以上とありたるを仁川其他の實例に傚し八圓以上と改め尙ほ評議員定數は朝鮮人を合し現在同樣十六名と定數の內內鮮人の數は改選期每に役員會に於て決定する筈にして內議に依れば朝鮮人は二名と爲す由なれば結局現在よりも內地人は二名を減ずるに至るべく更に常議員は現在五名を三名とし正副會頭各一名の內副會頭は會計事務を監督し財產を監理する事となりたり因みに新定款に基く新會員數は內地人百三十二名朝鮮人二十四名の見込なり▲商議發起人會　別項定款を原案とする新會議所發起人會たる現議員總會は來る二十五六日頃を以て開催すべしと▲參謀長來木　駐劄軍參謀長古海少將は南鮮方面守備隊巡閲の途次松浦參謀大尉と共に去十七日夜來木せるが十八日午前九時海南に向け出發せり尙ほ海南より陸路順天を經て馬山に出づべしと

●元山より

▲元山大豆出廻り　元山大豆は滿洲大豆に比し品質頗る優良にして內地に於ける朝鮮大豆の格付に於ても常に首位を占めつゝあり、其の生產地の範圍極めて廣きも良品の生產地は重に安邊、端川、永興、文川方面なり、就中文川大豆は鐵道開通以來運賃並びに之れが手數に於て多大の便を受け續々出廻りつゝあるが出廻り盛期に入りて以來下府小作人等は客月中旬頃迄に殆んど出し盡しの狀態なるも比較的富農者にありては之れを取急ぎ金錢に代ふる必要無き例なれば多くは舊正月迄持越すの習慣にして現に之れ迄輸送せし大豆の高に比し尙ほ三分の一以上は持越し居るものと見て大差なかるべく一方相場も多く格安なれば一般に手放さず之が爲めに取引頗る閑散にして客月中旬以來集散商の減少を見たり

▲桑苗養成事業　咸鏡南道に於ける魯桑實生苗の養成並に移植後の成績は之れを從來の經驗に徵するに他道產に比し良好なる爲め盛んに農家の需要を呼びつゝあり、現時に於ては道種苗圃の生產のみにては到底之れに應ずる能はず他道產を購入せる有樣なるが當局にては購入を廢止する手段として本年より面種圃に於ける桑苗養成事業を擴張し此の大勢を調和する方針にて種子共同購入の方法に依る由

▲長箭近海の捕鯨　長箭港近海に於ける捕鯨事業は舊臘を以て捕鯨期の終了を告ぐべき形勢なりしに拘らず本年に入り元旦より十日迄の間に四頭の捕獲あり且つ例年當期に於て捕獲せらるゝものは兇鯨のみにして而も中旬に至り鯨族の漁獲斷絶すべき筈なるに再び長須鯨の捕獲を見るに至れり、斯の如きは實に從來の記錄を破りたる不可思議の現象なれば從業員一同驚倒の有樣なり、尙ほ將來の漁況に關しては何人も豫測し難きも會社側にては氣候の許す限り事業を繼續する意嚮なる由從て其引揚げも亦例年に比し一二旬の遲延を見るに至るべし

▲明太魚と若布　元山驛に於ける昨今の明太魚輸送狀況を聞くに沿岸各地の豐漁に連れ出廻り益々盛んとなり現在の機關にては到底輸送する能はざる爲め數日前より臨時貨物列車を運轉しつゝあり、又客年初秋以來出廻り全く杜絶せし元山近海產の若布は昨今漸く出廻はりを見るに至れるが之れ舊節季に近づくと共に鮮人向き諸品の荷動き活潑となりし結果にして之れが需要地は重に京釜線地方なりと

▲大正燕麥の普及　咸鏡南道長津、三水、豐山の三郡は燕麥の生產地として聞え居れるが道廳に於ては極力之れが改良に腐心し曩きに大正燕麥を無償配布したる結果今日に於ては稍改善の成績を認むるに至りしも尙ほ本年度に於ては其の成績の良好なるに鑑み極力大正燕麥の普及を爲すべく北海道產の大正燕麥五十石を購入し右三郡に無償にて配布する由（一月十八日）

商況

債券現物特電

十九日東京來直段（前日との比較）

東拓	七一、五〇	[illegible]
[illegible]	一六〇、〇〇	[illegible]

公債直取引（時電）

十九日東京來直段（前日との比較）九六、二〇

深川在米特電

[illegible]	八二、六〇	
[illegible]	八三、八〇	
[illegible]	九五、一〇〇	

東京期米特電

十九日現在高

一七、二八四	一八九、一九四
二四、六八八七	

大阪株式特電

十九日前場 二月限 後場

四二、二五	
四二、二二	
四二、三三	
四一、二九	

大阪三品特電

[illegible]

大阪期米特電

[illegible]

下關期米特電

二十日前場 當限寄付 中限寄付 先限寄付

一四、九六	
一四、二三	
一四、八九	

め止

賣買停止

朝鮮物產特電

品名	
慶州改良大豆	[illegible]
慶山改良大豆	[illegible]
元山特別大豆	[illegible]
鎭南浦改良大豆	[illegible]
城津大豆	[illegible]
龍山大豆	[illegible]
長湍大粒	[illegible]
仁川小粒	[illegible]
京城大豆	[illegible]
平壤大豆	[illegible]
群山大豆	[illegible]
木浦大豆	[illegible]

雜報

●石油更に値上げ

石油は去る十五六日兩日に互り一罐五十錢の値上げを爲せし事は既報の通りなるが十九日午後に至り內外油共更に二十五錢の値上發表したり本日より松票四圓八十一錢勝利四圓六十二錢旗四圓三十九錢（迎）を賣行するとに至れり

輕油又二十錢高

[illegible]なりしが尙先高見込みの折

見越買の注文非常に多

一方販賣店は會社側の制限附賣出し同柳の今日の如く現下の入荷捗々しからざるより注文に應じ切れざる有様なり

●白絞油益々騰貴

白絞油は輸出の好況殊に種油及び容器の騰貴を受けて前報後構米製油の入荷は著値十二圓を窺らし捲て

罐不足に急ぎ注文を一時に引受け難き趣を附記せりとの事にて

各地商況

○木浦（十八日の穀物）
▲米況（不勢） 人氣は愈々不勢にして商內面白からず數日前より二三

▲朝鮮一等白米（當用）	十四圓三十錢
同三等白米（當用）	十三圓九十錢
▲慶山大豆	九圓六十錢
▲元山大豆	十圓
▲倭舘大豆	九圓五十五錢
同	九圓六十錢
▲宮川大豆	九圓七十錢
同	九圓七十五錢

下關相場

▲朝鮮白米も不捌　依然內地米の商内面白からぬに連れ兎角賣氣勝にて相變らずの不捌けに依り矢張市況軟弱なると產地も別に大したる安報を傳へざる杯各米主の氣張り居る爲め前後相場の低落を見るに至らず其後に於ける當用口への出來値は左の通りなり
▲小豆は依然不味　本品は頭日來兎角賣れ行き鈍傷にして相變らず人氣面白からず然れども其後出廻り論切れたると產地も別に安からぬ杯各手持筋の投げ出さゞるに依り差したる相場の低落を見るに至らず
▲大豆は先づ保合　其後慶山物二十叺白川物百叺永同產三百五十叺深川物二百十叺沃川物三百九叺長湍物百九十八叺元山物三百七十叺フリツボ產百五十叺等の輸入ありしが兎角產地との比較上各荷主の安くは手放さざるに依り差して人氣狂はず之れが爲め々の出來値は左の通りなり而して白川物九百五十叺許り出來したるも門司渠りの十圓臺ならんさと公然發表せざるゆゑ詳細不明なる

放物も現はれつゝありと 成行き手

休業同樣の籾摺業者は殆ど

三圓臺の見當にて弗々米は中白十一圓二三十錢[illegible]

●烏山正米の昨今 出穀漸く多

烏山方面は此處新穀手を控へ[illegible]

仁川期米

▲二十日前場 三錢安の入

大阪七節七十四錢と安移りに資物逡に十九錢と崩落

市場零聞

▲前場の大激戰

▲前場崩落す

▲保合下岐れ乎

物多く一方利喰に新規に賣物あるも頁落するに至れり

投げ新規に賣

田中大全米穀店　電話 長六二八番 一五二番

●燐寸益強硬

燐寸は其後益々強硬にて安全の此處四十圓賣は既に敢行さるゝに至り今やボスは今や四十六七圓を唱へられつゝあり現下の大阪相場は安全五箱建三十五圓といへば之を當地の六箱建に換算せば大阪原價の四十二圓となり之に運賃關税を加算する時は殆ど五十圓近かくなる譯なれば既約品漸減に連れ自然大阪相場との釣合接近を見るべし商內地問屋者中唱ふる處によれば今後ボス一個五厘の價格迄に引上得るり見込みありとか若し之を實現する曉は當地の七十圓以上に當る如何の成行きを見ずや

吉　行賀仲買店　仁川海岸町三丁目　電話長二〇二九番　振替京城三〇二三番

●洋臘値上げ

洋臘は原料パラフイン高によりて今般製品は十九日一斤物二十一錢五厘方の値上げを發表しより各販賣店に於ても同日直ちに之を實行し斤物二十一錢五厘を實行させり、同社に於ては非常に原料排底せる模樣にて近かく尙二三錢の値上げを爲すやに聞けり

一時既約のあるに任せ會社相場より[illegible]安に賣應じつゝありし當地も手持の減退と今後の高値物の入荷を慮り此此愈々會社の現在相場に伴ひ賣値ぜんとする向多く數日前迄は十一圓六七十錢唱へなりしものも今日にては早くも十一圓三四十錢を賣行するに至れり

京城正米

十丁方の低落傾組十一圓三十錢を唱ふ然而近來當市場特に不勢甚しき一因とも見らるべきは實に其の糯割高なるにあるもの如く騰貴せし如く糯は定期一限三圓臺を覗ける先頭さへ尙五錢より十錢を唱へ本日又々三圓十五錢より十七八錢を仿徨す騰過著稍少き爲めと各問人案外保強氣なるによると雖も然も常に不引合なる製高糯を買入れ搗製後は市場相場一向不味なるにより手放しもならず自然苦境に導きつゝあり昨今稀有の不勢市場を現出せしめつゝあり一昨日頃より漸く大潮に入りて糯の出廻りも日に增加せんとする傾向ある昨今定期筋も不味を感ぜらる近來の大勢はまた人力によりて挽回せしむる能はずと雖も何分の考慮を致すべきものなりとす本日商內傾組下輸二十五叺糯千二百三十四叺

南大門の廻米

烏山白米	四〇叺	全南白米	三五叺
烏山白米	四三叺	興水胡麻	二九叺
烏山玄米	四七叺	金村白米	一七叺
水原糯	一九五叺	一山白米	一五叺
郭山糯	二五〇叺	烏山糯	二〇叺
成歡原糯	二〇一叺	天安白米	二〇叺
烏山白米	八〇叺		

期米の下岐れ買人側持疲れ等に弗々成行の賣物現はれ初めたるも斯くなるに從ひ精米筋も益買聞ずし安附値は更に安附口となり相場も思らず捗々しき商內行はれず市場は連日見送り閑散の姿なり

仁川現物市場

▲穀入津四五百俵
▲氣配期米安にて安人氣
▲正米入津五六百叺
▲氣配期米安に連れ安人氣なるも午前中商談行はれず
▲大豆入津少なし
▲氣配見らざる唱へ

▲二十日前場 三錢安の入

△大阪前場十[illegible]
四圓八十九錢と昨比より[illegible]

●正米界の情情

▲裏日の安値二十五錢と下廻る茲に保合下岐れの惑あり果して下岐れたるが一時的の下値なるが否や疑問なるも永々の保合振りたる上より見れば今一般一押しある模も疑ふ形勢である
▲支那人朝鮮人の買思惑起り爲に內地より移出したる數餘程大數に上り意想外の盛況であつた然るに昨冬仁川に於て支那人朝鮮人の買思惑起り爲に內地と不引合の價位を維持するに至りたるも當地は一向弛まず賣思惑益旺んにて稍もすれば上奔らん形勢であつたから
▲益不引合に陷つたる然るに田舍地方は已に出盡しさ其同時に高値な纜持し今殺に反つて參の方割高を唱ふるに至り容易に弛まず爲に出殺は殆ど有るも精米筋とて思惑筋との買に依つて持し居る相場なれば始終頭重きとなり來つたが斯ろ當然の成行である所も成行にて今後正米の移出は到底絕望と思はれる一面
▲精米としての餘地充分さの邪なれば大したる下落は望まれぬとの觀察し行るが如何

仁川米豆取引所

二十日の三月限

前場	寄附	〆	高值	安值	出來高
一節	十一圓三十三錢				
二節	十一圓二十錢				
三節	十一圓三十三錢				
四節	十一圓二十九錢				
五節	[illegible]				三萬八千八百五十石

平均値段

一節	十一圓三十錢
二節	十一圓二十五錢
三節	十一圓二十六錢
四節	十一圓二十二錢
五節	十一圓二十二錢

賣買取組高

一月限	二百石	
二月限	千四百五十石	
三月限	二萬六千三百石	

十九日後場　出來値　前日と比較

一一、四三	一〇安
一一、三九	九〇安
一一、四三	一〇安
一一、三九	九〇安

北濱だより

▲紡績株と支那問題

支那問題のある割合に紡績株が其の打撃を蒙むる事の遲鈍であるのは目下稼擾しつゝある地方は綿布の多數を消化せざる地方であるからであるが其の紛擾の波紋を大にして四川省に及ばゞ輸出綿糸は之につて大なる不況を招致するに至るであらうと云へる向もあるけれども幾分か輸出綿糸が不況を見るも亦紡績品に新紡績株も多少の打撃を蒙むるでこして莫大小などに少なからず影響を受くるは必然なり然れども內地に於ける消費量の増加は可なり影響なきも紡績の多き割合に各會社とも收益のことを考ふるに及ばざるを增加せず豫じめ不況時に處する用意も整うて居るのだから支那問題の爲めに安値に叩かるゝが如き事あらば反て恰好の買場所であらうと云へる強氣筋もあるのである

乾物小賣相場

ムキエビ二〇〇、チリメンザコ二五〇、ウニ四五〇、メザシ二八〇、ノアタ七〇〇、イリコ一五〇、オシチカラ一八〇、ホシカレイ五〇、イカシチカラ二〇〇、シナサケ一八〇、アミシオ一二〇、サンマ二五〇、ヤマダシコブ三〇〇、イワシ一五〇、ダシコブ二〇〇、ウルメ一五、イタコブ一二〇、サケコウジ八〇、タシコブ八〇、トサブシ一八〇、ミツイシコブ八〇、サツマ七〇〇、トロロコブ二五〇、フシ五〇、オボロコブ二五〇、ケスズ子三〇〇、キリコブ八〇、シヲカズ六〇、ヤチヨマキ三〇〇、キスケニカレ六〇〇、ゲイダイサツケ三〇〇、ノリツケゲ二五〇、キンカンサトツケ三〇〇、シナコンブ二〇〇、サイカキサトツケ三五〇、ハセツクダ二三〇〇、ナスサトツケ三〇〇、アイツクダ二八〇、アチトサトツケ三〇〇、ハマグリツクダ二二〇〇、キスケニエビ六〇〇、タイアンブ三五〇、サンショウツクダ二九五〇

豫報

[illegible]

第十二版

齊家處世の要道 趣味修養の經典

□蘇峰學人著 定價金十五錢 □

生活と處世

人生最も重要なる問題は何ぞや。云ふ迄もなく、皆生に處して其の命運と目的とを完全に遂ぐるにあり。即ち人の子たり、父たり、夫たり、將た又市民たり、國民たり、世界の民たる職分を盡すにあり。然らば即ち本書は、此の人生の第一義を講明するもの也。

郵税二錢

第五版

□蘇峰學人著 定價金十五錢 □

處世小訓

人間の力は、宇宙の大、無極の永に比すれば實に憐むべきに過ぎず。されど一日の存在には一日の仕事あり、一人の生活には一人の職分あり。本書は敢て高遠行ひ難きの言を弄するものにあらず、唯吾人の世に處して爲さゞるべからざる所を力說したる處世實學の眞髓也。

郵税二錢

第十三版

□蘇峰學人著 定價金十五錢 □

家庭小訓

子女教育、家政家事等の事は固より、大は家庭の感化を國家に及ぼす事より、小は花見、納涼、物品贈答の如きに至るまで、家庭に於ける百般の事項一として網羅せざるはなし。即ち本書は必讀の家庭寶本にして、之を當今の女大學、今川狀と云ふも可也。

郵税二錢

第九版

□蘇峰學人著 定價金十五錢 □

文學漫筆

題して文學漫筆と稱するも、單に文學のみの漫筆にあらず。或は人生の問題に關する事あり。或は政治に及ぶものあり。而して或は我が國民の性情を陶冶せんと欲するものもあり。然れども其の歸著する所は、我が國民の性情を陶冶せんと欲するに外ならず。

郵税二錢

第廿一版

□蘇峰學人著 定價金二十錢 □

文學斷片

文學とは如何なるものぞ、是れ實に大なる問題也。本書は博大なる著者の文學的感想評論を收めたるものにして、文學社會の風潮、作物の品隲、思潮評論、自然人事に對する感想等、苟も文學に關するもの悉くを網羅せり、斷片と稱すれども、每編悉く是れ精金美玉たり。

郵税四錢

第六版

□蘇峰學人著 定價金十五錢 □

漫興雜記

昔は詩人謠うて曰く『詩多漫興無佳句』と然れども人の肺腑に徹するの天籟は、往々不用意の漫興中に於て見るべし。本書は實に著者の深奧なる思想と、人事自然の感觸とを瑰麗なる筆に託して迸流せるもの、皆是れ精神的食糧の用に供すべきもの也。

郵税二錢

發賣所 ▲郵送料本社負擔▼ 京城太平通一丁目 京城日報社代理部 振替京城三〇〇番 電話六六〇番

越後大評定

第百六席　早川貞水口演

彌二郎の忠告

綱『何と申す、悪人共の勸めとは如何なる仔細なるか』彌『然れば悪人共は御主君を不行跡に御仕立申し上げ御隠居を願ひ出で、小栗美作の一子大六を以て、御家相續を取計らふと云ふ悪人共の計略で御座る、それを御存知なく、斯く吉原町へ御遊び放御身の上を案じ、今晩この所へ現はれたる關根彌二郎、悪人共の計略のある所を、御注意申上げる次第、何卒彌二郎が微衷を憐み給ひ、今後この吉原町へ御入來の儀、御無用に願ひたく此儀御用ひ遊ばされぬに於ては由々しき大事に御坐いますから、左様御思召を願ひ奉る、今後重ねて御目通の儀は願ひませぬかも知れませぬ、よく〳〵彌二郎申し上げること、御心に留めさせられたく』と申し上げると、其まゝスーッと立去つた、そこで殿様『參れ〳〵』と仰せられる、一同濡鼠の如くなつて、其處へ這上りまする『今宵は引返すであらう、面白からぬ儀である』御意に御坐いますと云ふので、是から駕籠夫を呼んで、山谷堀の竹屋から、船で築地の御下屋敷へ御戻りになりました　綱『さうも偉い奴、大穢な奴に出會つた』奥『何者で御坐います』綱『イヤ曲者であらうが』と、三河守殿も關根彌二郎と云ふことは仰つしやらぬ『先づ當分吉原町へは通はぬ事に致す、又あゝ云ふ事があつて、其方共に怪我でもあつてはならぬから』と仰せられ』其後は聊か御止まり、此方は關根彌二郎、其翌晩になつて、容子を窺つたが御來遊がなさゝうだから、もう占めたと思つたが、不圖氣が注きましたのは、是は又日が經つと、御運びになるに違ひない、一層の事、三浦屋へ若紫を訪ね若紫に能く頼まう、それが宜いとそこで自宅で御坐います、羽織、袴、大小、深編笠を冠つて關根彌二郎、新吉原町へブラリ〳〵御入りになりました、夜中とは異ひまして寂しい頃て京町の三浦屋四郎左衛門方へ參り　彌『頼まう、頼まう』若い衆が聽いた、女郎屋の口に來て頼まう〳〵と云つて居る、珍らしい人だと思ひ　若『ヘイ、斯りや入來つしやい』彌『三浦屋四郎左衛門殿御住居は此方で』若『左様で御坐います』三浦屋は手前で　彌『主人に對面いたしたい、仔細あつて姓名の儀は名乘る譯に參らぬ』若『ヘエ、ちよつと御控へ下さい』と奥へ來て『旦那、大變な侍が來ました』四『何者だ』若『門口へ來て、名前は名乘れぬ、三浦屋四郎左衛門殿に對面したいと、誠に丁寧に仰つしやる』四『左様か、何な御方』若『イエ、ナニ御浪人體で御坐いますが、大きな御方で御坐います』四『ム、なにか仔細があるだらう、御目に掛から』三浦屋と云ふ人物は女郎屋の亭主で御坐いますが、なか〳〵學問もあり確乎して居ります、其時分は遊女屋の主人にも隨分偉い者が居りまして、大文字屋太郎兵衛なぞと云ふ人は、かぼちや太郎兵衛と云つて有名な人物、狂歌が出來て文章が書けた、此四郎兵衛も歌誹諧が出來て、碁將棋の心得もあり、誰樣の御對手も出來る品格のある人、そこで『内所の方へ御案内して、客座敷へ叮嚀に御通し申せ』

一月廿二日九星

舊十二月十八日戊午　本命一白北軌大安

●一白●　思ひやりのなき事有り　新事見合西方は [illegible]
▲二黑●　圓滿に運ぶ [illegible]
▲三碧●　都合よき日 [illegible]
▲四綠●　[illegible]
▲五黄●　何となく不快の事 [illegible]
▲六白●　[illegible]
▲七赤●　うるはしき日 [illegible]
▲八白　あやしき事有日 新事手控ふべし [illegible]
▲九紫●　不自然の事有日 新事手控へ [illegible] 注意せらるべし

演藝案内

壽座
本町　電話五七八
二十一日替り狂言
古手屋八郎兵衛
中老後の政岡
源平布引の瀧
[illegible]

壽館
本町　電話一〇五〇
[illegible]

黄金館
特別大興行
初日以來滿員續き
赤穂誠忠録琵琶史劇
堀部安兵衛一代記
全四卷八十五場續き

有樂館
本町一丁目　電話二六六
力士浪花節　綾瀬川山左衛門一行
▲松平長七郎續き(吉田若秀)▲慶平太平記續き(桃中軒岳風)▲鬼若三次續き(喜樂亭喜樂)▲正宗孝子の鏡(吉川秀廣)▲村上喜劍(桃中軒雲太夫)▲安高丸續き(綾瀬川)
○大切餘興として一人十役入り四十八手取り退御覽に供候
▲三味線(吉川秀子)▲同(桃中軒千代志)
特等六十錢 一等五十錢 二等三十錢 三等二十錢

大正館
櫻井町　電話八七三番
一月廿日より特別大寫眞提供
○實寫リヤムメン遊覽　第二十八號○滑稽お猿の逃走▲佛國エクレール會社傑作　探偵奇談シドニー街の秘密　全三卷
△暗夜の叫聲何事でシドニー全市民戰慄！堪ゆべき大活躍は舞踏會の變裝となり若肉の計畫さなり湖上の一大林園假面の紳士は如何にして其秘密を顯はさんとするや△日活會社東京派新聞連載 立花貞次郎一派川瀬合
◎小新派浮説 幽靈屋敷 全三卷二十七場
△父母に死別せし遺兒の兄弟唯一の財產は銚子海岸の怪しき地中にあり呼びて幽靈屋敷と云ひ [illegible]

御成座
御成町　電話一二九一
二十日目藝題
一番若　[illegible]

大正館
特別大興行
松之助延一郎出演問題の大寫眞レコード破大提供
●舊劇神宮小太郎
東京都新聞連載小說
●新派幽靈屋敷
全篇凄と怪鬼氣人に迫る極端なる冒險の大活悲劇

黄金館
黄金町四丁目　電話二六三七
一月十七日より特別大興行
○滑稽安すい貸賞○ [illegible]
○[illegible]一七八號 全三卷八千尺
[illegible]
堀部安兵衛一代記

浪花館
明治町　電話二六〇番
○東京落語三遊派幹部一行
[illegible]

陰萎病並に神經衰弱に大効あり
滋　田春丸　腎
岸田吟香
東京銀座

志らがナイス　赤毛染
「色も艶も申分ない志らが染はナイスが第一」
ナイス五大特色
■僅二十分で染る。
■永く剝げ褪めず。
■艶々と黒く美しく。
■枕に浸着せず。
■用法至極簡易。
大瓶六十錢小瓶卅五錢
男子用卅五錢
發賣元　東京大阪　丹平商會
到る處の藥店化粧品店にあり

優良石鹼
花の都
マスト石鹼發賣元
東京大阪　野村外吉商店

防寒靴
紙表フエルト底裏止金一圓四十錢
同パテント上ゲ金一圓四十錢
同ミア付上金一圓五十錢
アミアゲ皮八卷各種スリッパー
改造皮靴販賣
京城本町二
皮靴スリッパー製造販賣　日東商會

消化と毒けし
仁丹
お正月の宴會、旅行、觀劇、寄席行に仁丹飲んで愉快〳〵！
金言　人を相手にせず天を相手にせよ…（西郷隆盛）

鑛山賣買の速かなる事は京城府安國洞一五三番地(電話二六四)中厚永の鑛山賣買仲介所に依頼するに限る

模範牛乳
純粹培養ヨーグルト
場主獸醫肥塚正太
京城通洞町四
東亞牧場（電話二五五）

越後產物　地下足袋
朝鮮一手特約販賣
京城本町二丁目　釘本藤次郎本店

Mゴム印
賣行盛に倍々發展
M印は特に撰ばれて長き途に實用上の光最優良品と御記憶下さい
三田土ゴム製造合名會社製造
發賣元　飯田商店

食後常用　滋養菓子
米國リグレー會社製
チウインガム
一名噛み菓子　一包金拾錢
實際うまいれ　僕好きだよ　あたし好きだわ　全くようござんすれ　と家庭の大問題となれる
食後常用の特効
齒牙を白くし食慾を增進し
噛めば噛む程美味で芳香で息切れを防ぐ
運動外出に必要
電車、汽車中　自轉車、自動車　ベースボール　ボートレース　テニス　運動會、遠足會　芝居、寄席　散歩、旅行
市内及各地菓子店、食料品店、洋酒店、藥店にあり……
日本、朝鮮、滿洲總代理店　東京銀座　ゼ、ホスピタル、サプライ會社
代理店　京城本町二丁目　株式會社明治屋京城支店　電話二二〇・一七二三番
煙草世界的代用品
WRIGLEY'S DOUBLEMINT DOUBLE STRENGTH PEPPERMINT
WRIGLEY'S SPEARMINT CHEWING GUM

光榮　宮内省御買上
名譽金牌　於衛生博覽會
東京で一番よく賣れる美人こなる化粧料
白粉が思ひのまゝに付く
ホーカー液をお使ひなさい
▼ホーカー液を常にお用ひの方は皮膚を白羽二重の如く、白くキメ細かにスベ〳〵と美しくし
▼白粉下又は白粉のトキ水にホーカー液をお用ひの節はドンナつきの惡しき白粉もノリ、ノビ自由にして性來色白き様な白粉の生彩を現し
▼外出水仕事の前後にお用ひあれば顏、手足のアレを防ぎヒビ、シモヤケ等の患ひなし
▼其他紳士の顏料として剃刀後によく子供衆の皮膚を丈夫にする等家庭唯一の佳品なり
東京大阪三越呉服店を初め全國到る處の小間物店にてホーカー液は一番よく賣れます
本舗　東京神田柳原河岸(和泉橋)　堀越嘉太郎商店

手紙上手は一生の徳
會監大町桂月先生　顧問巖谷小波先生
完備せる『手紙文講習録』に依りて速成的に手紙上手となしむ
六ケ月卒業◎入會好機◎會員の手紙を無料添削あり◎特典◎見本附會則申込次第送呈◎會費一ケ月卅錢…全納一圓五十錢
東京市牛込元高田馬場
手紙研究會
振替東京二八六六番

汽車
[illegible]

第三版

京城日報

二十一日朝刊（第三千六號）

本紙定價　一部金三錢　一ケ月金六十五錢　郵送料共

廣告料　五號活字一行金 ……

發行兼編輯人　奧田直毅
印刷人　卷口收太郎
發行所　京城太平通一丁目　合資會社京城日報社
電話　編輯用三四五番　營業用三二一番・八六〇番　振替貯金口座京城三〇〇番

總督の諭告と吾人の覺悟

十四　商工業の將來

朝鮮の工業は歴代の秕政と共に永年衰退して萎微振はず、機業、窯業、製紙業、金屬製品業等極めて小規模の工業纔に其跡を留むるも、而かも其の技術幼稚器具粗笨にして製品甚だ惡く、産額亦見るに至らず、卑近なる日常の生活資料すら其大部分は之を輸移入に待たざる可からざる狀況たりしを以て、總督は亦重きを工業行政に置き、既に素地ある工業は勿論前途有望の事業に就きては其改良發達を促進すべく、或は工業傳習所の規模を擴張して各種の傳習生を養成し、又中央試驗所を設立して諸般の試驗調査を行はしむると共に、各地の工業傳習事業、若くは有望なる工業の創始に對して補助を與へ、且つ技術者を派して指導に努めしむる等大に其獎勵に盡し來れる結果、在來の工業は次第に其面目を改め、新工業亦年を追て現はれ既に整備したる組織を以て事業を經營し、或は之に著手せんとするもの尠からざるに至れり

此の他鮮內の産物中品位、品質の亂雜にして統一を缺ぎ、商品として不利尠からざるものに對しては諸種の方面より之れが改良を圖り、又た商工業に關する各地の狀況統計等を精査して當業者の參考に供し、或は特種産物の生産に對して適當なる販路の紹介に盡す等、指導誘掖至らざる所なし

斯くて明治四十五年十一月京城に設置せる商品陳列館は開館以來五十萬に垂むとする觀覽人を算し、商工業の改善進歩に貢獻せる直間接の績頗る大なるものあり、又大正四年九月景福宮內に開催せる始政五年記念物産共進會は開期五十日を出でざりしも觀覽者百萬を超え、朝鮮今後の開發に資せる効果擧げて數ふ可からず、殊に度量衡法の改定は事習俗の改變に屬するを以て、之が施行は容易の業にあらざりしも、明治四十五年に於て全土に施行を完了し、諸般の監督及び普及機關を設けて其統一を圖り來れる結果、同法發布以來昨年十一月迄に於ける度量衡器の賣下額は合計二百四十萬四千五百六十八個を算し、一千戶當り八百七十四個の普及を見るに至れり。

斯の如く諸般の施設は著々其効果を擧げ、各種の經營亦倍績を收め、鮮の商工業は爲めに多大の改良進歩を示し來れりと雖も、今日の進捗は未だ其一端にして斯界の前途は尚ほ遼遠なり、殊に工業の如きは併合以來企業に對する機運を誘致し、工産額今や三千餘萬圓を算するに到れりとはいへ、鮮內の現況は尚ほ原始産業の域を脫せず、工業的材料各地に溢れ、有望の事業隨所に吾人の經營を待てるに拘らず、依然として之を放擲し其供給を外に仰ぐもの尠からざるは憾む可し、之れ總督が終始自作自給を鼓吹する所以にして吾人は更に奮勉努力進むで天興の富源を開發し、自然の惠澤を利するに遺漏無きを期せざる可からず

支那の鐵道（十）

川漢鐵道

漢口と四川との間を結び付くる鐵道敷設權は支那に於て最も重要なる權利にして、所謂川漢鐵道即ち是なり此鐵道敷設權は初め英米二國協同にて獲得せんとするの意嚮なりしが、一九〇四年に米國は此計畫に關與することを拒み、翌一九〇五年には英佛兩國の協定成り、斯くて英佛資本團は熱心に計畫運動に努めたりしが三四年間は何等の成績も見る能はざりき、然るに一九〇九年に至り、支那は漢口廣東間のみならず、漢口四川間の線路をも敷設するの目的を以て、英佛資本團の提供するよりも更に有利の條件にて獨逸資本團との間に借款の契約をなしたるを以て局面は俄かに展開するに至れり。但し此借款契約は英佛獨三箇國間に協定の成立すると共に消滅し、前記三國は漢口廣東間及び漢口四川間の線路敷設條件に關し互に協約を爲せり。然るに此の三國協定の成立を見たる米國は顧みて晏如たる能はず、一九一〇年に至り米國は北京に於て其の權利を主張し强要し、若し之れを措きて顧みざるに於ては事態紛糾を來すべきを以て、英佛獨三國の資本團は遂に米國をも協定に加入せしむることゝなり、一九一一年五月に所謂四國團と支那政府代表者たる盛宣懷との間に本契約の締結を見たり。湖廣鐵道借款契約即ち是なり。此契約による借款は六百萬磅（年利五分）にして、其內三百萬磅は漢口四川線敷設のため、殘る三百萬磅は漢口廣東線の敷設に費さんとするものにして、四國は尚敷設上必要の場合には尚ほ四百萬磅を供給することを協定せり。

川漢線は四川省成都より重慶、夔州等を過ぎ長江流域の湖北省、歸州、宜昌、荊門、襄陽等を經て漢水に到る約八百哩の幹線にして支那の官營とし借款規定に依り廣水宜昌間は獨逸技師、宜昌夔州間は米人技師の手にて測量せられたりしが暴動の爲め豫定の工事著手は遲延せられ、未だ實際の始工に至らず。

議會覗き

東京支局　一記者

休會中に著しく硬化されたと噂のある貴族院は十七日に第一回の幕を開けた▲大隈首相も大に元氣を恢復し岡陸相亦た痩軀を現はし參政官連も蕭然として控へ議場は水を打つた如く緊張する▲武富藏相の說明型の如く了ると意氣昂然たる天晴の武者振りを見せて壇上に現はれた田健次郎男▲音吐朗々たる男の演說は事理明白、論鋒銳利、例のお手のものの基金問題を縱橫に說き去り說き來るところ卓厲風發の趣があつて滿場に片唾を呑ませる▲『政府が本院との公約を無視して基金の還元をせぬのは恰かも瀆職事件に關してあれは前內相大浦君の爲したことで政府の知つたことでないといふのと同じ筆法だと評する者もありませう』とか『また政府は本院を水産講習所移管問題に於ける村田保君一個人程にも貴重してゐないと申す者もありませう』とか巧みな反語を用ゐて皮肉つて還元論者の溜飲を下る▲之に答へた大隈首相は日頃に似はない低聲で『一時的の變態で常時を律する譯には行かぬ』の一點張りを此處を先途と繰り返して逃げを張る▲續いて現はれた仲小路君の質問は確かにグサと武富藏相の胸を刺した▲『非常特別税を以て鐵道を敷設するとは如何なる御所存か』と柄も通れと許り突込だ時には藏相の顏にサット血が漲つた▲流石の藏相も衆議院で『糊塗改論ではありません』と叱り付けた勢ひは何處へやら『改正すべき時機さへ來れば直ちに改正致す』は苦しかつた▲休憩後の再開で水野鍊太郎君と武富藏相との問答は一上一下確かに滿堂の手に汗を握らせた▲何れ劣らぬ明晰な頭腦の持主とあつて問ひも答へも共にソツがなくて要領を得たものであつたが▲最後に水野君『政府は海軍擴張費すら其の財源を定め得ないのに、租税を以て鐵道を敷設するは如何なる所存ぞ』と仲小路君同樣の匕首一閃藏相の胸に擬して勝負は見えた▲水野君矛を轉じて岡陸相に迫り議場今や緊張の極度に達し、あはや鮮血の迸るかと危ぶまれた時肥滿短身の老紳士がノッソリと現はれる▲誰かと見れば高木兼寛男六尺に餘る草稿を擴げて悠々閑々たる態度で『一拇て壯丁の體格が……』とやりだしたので滿場グスリとやつて緊張した空氣が臺なしに崩れる▲最後に擱れを止めたのは加藤大藏參政で目賀田男の質問に對して此處ぞと演壇目懸けて驅け上らうとするのを目賀田男一聲高く『本員は大藏大臣に質問するのであります』と遣つたので裏天君强たか面喰つて狐鼠と引下る▲大臣席に勿體らしく控へた尾崎法相まで思はずブッと吹き出したところで幕（十七日夜記）

財界時言（二十日）

◎商業會議所に望む◎

○京城商業會議所が新令に據り設立せられて日未だ淺きに拘らず總會席上相當に活氣を見るは擂氣滿々たる裡に形式的に議事を速了するを以て能事とするに比し寧ろ欣ぶべきか。

○公器を擁して公共の事を議するに當り、己れの正當と信ずる主張を飽くまで貫徹せんが爲めに、面を冒して相論爭する何んの不可か之れ有らむ。然れども私憤の爲めに協同的動作を紊り、私情の爲めに公器を弄ぶが如きは最も愼戒を要す。些々たる事の爲めに議事の進行を妨げ、意見の齟齬が無益なる黨派的行動として現はるゝが如きは、商業會議所の如き商工機關にありては最も忌むべく總て和衷協同を尙ぶを言を俟たず。

○新商業會議所は、其の設立の時よりして出發點を新たにせるものなり。議事の方法其他所謂舊慣に捉はるの理由なし。宜しく最も至當と認むる方法を以て今後に對する善良なる先例を作るべし。吾人は評議員諸君の行動が斯くありたりとの故を以て此の言をなすものに非ず。諸君に對し充分の敬意を拂ひつゝ、若し斯くの如きことなからむを希望するに外ならざる也。諸君之を諒せよ。

○商業會議所として今後計畫すべき事は頗る多かるべく、吾人其の活動を期待する甚だ大なり。殊に最も希望に堪へざるは朝鮮に於ける生産物の外國に於ける販路開拓及び擴張に向つて、商業會議所が今後大に努力せむ事なり。就中露國及び露領と我朝鮮、及び滿洲方面と朝鮮との間の貿易關係に於て我商業會議所は其大なる使命を有するものと謂はざるを得ず。彼の獨逸商人があらゆる機關を利用して自國商品の販路を露國內に擴張し得たるは最も實地調査の結果に賴るところ多きが如き、以て他山の石として可なり。商業會議所は直接の營利機關に非ず。其經費の如きは間接的利益を目的とするものなるが故に、必ずしも商賣上の算盤を應用してのみ豫算を議す可らず。此點は特に會議所議員諸君の一考を煩はさんと欲するなり。

滿蒙視察談

東蒙古地方に於ける狀況調査の爲め長春より吉林鐵道に沿ひて伯都訥に至り今の新城縣を經て洮南に出で更に洮南より開魯、突泉、醴泉、札薩克圖王府迄至りて近く大連に歸りたる某氏の談に依れば長春より新城縣に至る間東線に沿へる百餘清里の一帶は漢人種と蒙古人との雜居地にして何れも耕作に從事しつゝあるも新城縣附近は

△一大平野にして　人家乏しく從つて耕地も僅少にして未だ開墾されざる地多く此の附近は曹達地多く耕作に適する處少なきが如しされど少しく奧に進みて洮南より出づれば初めて山地を見る此時未開墾すれば有望なる地價は此附近一天地の（開墾し得べき所）十五元

△既に耕作に從事し居れり而して邦人旅行者に對し相當の內外を問へ居れるも土地問題に對しては頗る注意を拂ふ今充分の調査をなし能はざるも若し土地を購入せんとせば支那人との交涉容易なるもあり蒙古人は一般に邦人に對して好意を表し

△日本人さへ見れば安心して其の訪問を許しつゝあるが蒙古人の住家は平原中甚だ稀薄にして一日行程位の道程を經るも僅かに兩三戶の人家を見るのみなれば旅行者に取りては頗る寂寥を感せしむるものあり（大連）

京日詩壇

○對雪憶舊遊　齋藤三寅

枯木花開映敝裘。憶掬大色奈吟愁。追
擧四十年前夢。覓句谿梅山上游。

評曰　措字不苟、君與余同鄕。　譜

○此殊慈萱感　○同上　高田小芥

捲簾人倚水晶宮。玉樹瓊花簇曉空。憶
起富山明滅處。萬松風雪泊孤蓬。

評曰　富山賞松島勝萬第一勝景、余亦往年春初、得見其景、讀作神飛躍

○同上　西田白陰

南山北嶽玉權強。一聲倚闌呼快哉。記得當年三尺雪。原頭逐鹿酌村醪。

評曰　用筆快利、三四太奇。

○同上　成田魯石

王將朝來白幾堆。蓬廬策杖蒼茫杯。閒庭憶馬溪雪。醉墨淋漓遊傳武。

評曰　淸疎見致。

○宋時烈　松田學鷗

半道濤洛力搜尋。唱道傳明報國心。須虎跳寥古天地。鯨龍蹴躍出山林。萬恙欲踏戰塲血。叢鏽谷成遠島吟。遺跡千秋書萬卷。華陽洞日白雲深。

評曰　尤庵學問人品不讓退溪、七八餘韻綿邈

日報歌壇

□酒に痛みて　京城　大石皆灯

一きだを飲みて置きたる枕頭の水
驟觸と冬の薄陽と
甕の葉の一と葉く／＼に散りはてゝ
水甕に陽は眠りをり
病む事の十日ともなれば鳥打帽を
そとかぶり見つひとり笑めるも

□入院して

わが白きベッドの上に冬の陽はさして動かず何思ふらんぞ
涯し無く冬の大空晴れぬれば故なく淚湧き來る如し
力無く瞼をとぢてあれば物思ふ思ふことみな哀しきものか

□病みて　京城　藤村幻花

おとなしく醫者の寢言に橫はることの僅かなる命讀へん
かりそめに橫はりたる病院の白きベットの離れともなや
病める身を幸ひとせんわれを見にうら懐かしく友のつどへる
目に見ゆる斯る小さき下宿屋にわれ衰へて死に果てなん日
冬の日は淋しかりけり病室にものも言はで君と對ひぬ

日報俳壇

雉子郎選

初冬

初冬の一舟の苧買ひにけり　容堂
枝ぢもしポプラに鷄や今朝の冬　山民
初冬や油痕ある石疊　烏石

小春

起きしまゝ家にゐて小春哉　青扇
湖ほとりを障子連ねし小春哉　東村
通譯の友侍み發つ小春かな　北星
肌脫ぐや飴練る土間や小春凪　容堂

冬ざれ

冬ざれや近く來る山鴉　東村
冬ざれに畦木淋しく立てり鳥　同
冬ざれの庭の箒しけり佐大　靈巢
冬ざれや硝子戶破れて土間の雪　竹水

再版　改訂增補

朝鮮不動産登記　朝鮮商業登記　申請書式並心得

朝鮮總督府裁判所書記　早川保次君編著

▲紙數四百八十頁　代價金壹圓郵稅拾錢

本書中不動産登記の部には土地調査に關聯せるもの及不動産登記法に依る申請書式、官公署の登記に關する囑託書式等併て百貳拾餘件並に印鑑屆、印鑑證明願、改印屆、土地變更事項に關する證明申請（京城府所定）委任狀、契約書、保證書、建物圖面及共同擔保目錄雛形等を揭て加之官通牒、登記に關する決議、質例等苟も申請人の參考と爲るべきものは擧て各書式の末尾に之を揭記し以て疑默を釋明し又商業登記の部には未成年者、妻、法定代理人、商號、支配人及各會社に關する申請書式等併て五十餘件を登載し且一讀何人にも了解し得へき程度に之を編纂せり土地所有者、不動産上權利者、會社、代書者必備の參考書たり

發行所　京城日報社　振替京城三〇〇　京城大平通

子供之友　二月號出來

◎斬新な工夫あざやかな繪ハッキリと分り易い文章
◎見て面白く讀んで知識を增す唯一の教育的繪雜誌
◎小さい子供は勿論大きい子供にも愛讀されてゐます

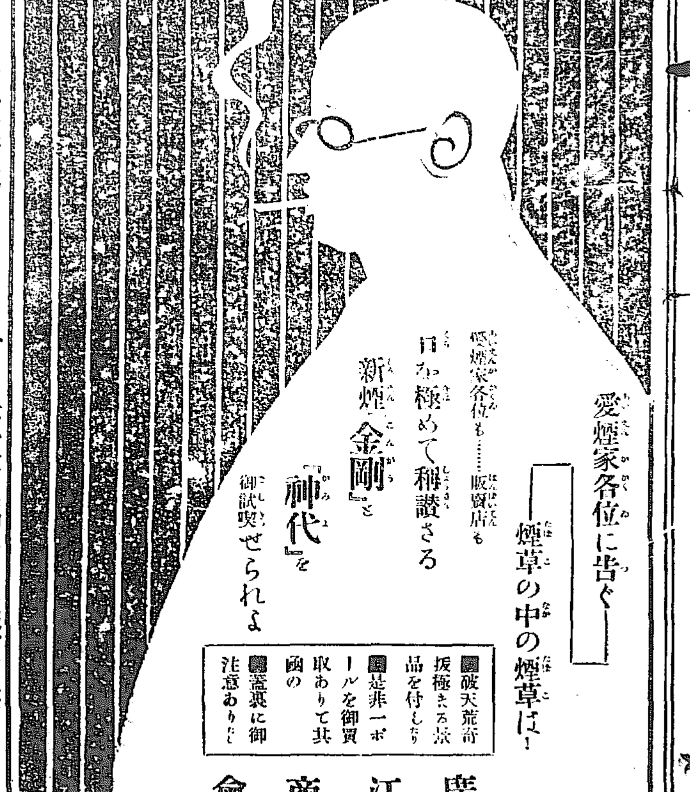
子供之友　一冊十一錢郵稅一錢　半年六十錢　一年共十錢

新少女　二月號出來

◎『新少女』運動部の新設發表—顧問早稲田大學教授安部磯雄先生
◎縮小說『鈴のゆくへ』……久米正雄
◎大きな人形……竹久夢二
◎長篇小說二つの星……村山元子
◎探偵日本戀しや……河井醉茗
◎家事ボンチ（着物のまちがひ）
◎統計ボンチ（女學校と女學生）
◎私が若し繼母であつたら（繼母のある方も兩親の揃つてある方も又繼子のある方も是非これを讀んで下さい）……羽仁もと子
◎赤い雪……理學士
◎少女家事（古いリボンの始末）……小南
◎最後の電線の切れる迄……松岡久
◎少女料理（手軽に出來る菓子）
◎クレオパトラの死……松本雲舟
◎おさく（私の見た少女）……與謝野晶子
◎大懸賞—全國の少女は平均朝の何時に起きるか　賞品　銀側時計　手さげ袋（投票用紙本號添付）

新少女　一冊十一錢郵稅一錢　半年六十五錢　一年共十錢

東京雜司ケ谷　振替東京一一六〇〇　婦人之友社



▲二十日現在高　朝鮮米　一七五四一八

深川在米特電

下關期米　▲商況の爲め停止

▲後場の商戰　……

▲本日の現物界　……

二十日の三月限

平均値段　一節　二節　三節　四節

露太公殿下御告別
盡きぬ名殘を惜ませ給ふ

去る十二日御入京、霞ケ關離宮に御滯在中なる露國大公殿下には廿一日午前十時五十分御退京に付き御告別の爲め廿日午後零時十分御正裝の上我が大勳位菊花大綬章を御佩用タキシエフ少將以下の隨員並に寺內總督以下の接伴員を隨へさせられ儀仗兵護衛の下に御參內あらせられたり是より先き天皇陛下には戶田式部長官の御先導にて波多野宮相以下の隨員を隨へさせ給ひ御車寄階上に出御親しく殿下を御出迎へ遊ばされ鳳凰間に御誘引厚き御握手の御挨拶あり次で零時半より豐明殿に成らせられ各皇族殿下並に元帥國務大臣の諸官に御陪食仰付けられたり斯くて御歡談後殿下には盡きぬ名殘を惜ませられつゝ陛下と御握手を換せさせ給ひ御滯在中帝室の御優遇を蒙むりたるのみならず日本帝國官民一同より熱誠なる驩迎を受けられたる御禮言上あり又陛下よりは殿下に對し殿下の御安全なる御歸國御希望の御言葉に次いで露國皇帝陛下、皇太后、皇后陛下によろしく言上あらせられん事を御委囑あらせられ次いで御車寄階上まで親しく御見送あらせられたり(東京特電)

聖上御告別御挨拶
優渥なる御告別の勅語

露國大公殿下には御告別の爲め參內せられたるに對し天皇陛下には廿日午後三時宮城御出門式外鹵簿により霞ケ關離宮に行幸御著輦あらせらるゝや太公殿下には寺內總督以下接伴員を隨へさせられ御車寄階上に御出迎へ直ちに懇懃なる御握手の御交換あり陛下大廣間に御誘引の上太公殿下には前に御歎待を蒙らせられたる御謝辭並びに御答禮を述べさせ給ひ陛下には優渥なる御告別の勅語ありたる上種々御物語りありて再び厚き御握手ありたる後御車寄階上にて太公殿下の御見送を受けさせられ宮城に御還幸あらせられたり(東京特電)

第三十七回帝國議會
貴族院(二十)

▲豫算總會 貴族院豫算總會は二十日午前十時二十分開會岡部委員長は大正五年度歲入歲出總豫算並に同特別會計豫算同豫算外國庫の負擔に關する件を一括して議題とする旨を宣し武富藏相の說明あり委員長は質問順序に就き一財政二外交三軍事其他の三部に分ち質問すべきを諮り財政質問に入る劈頭

▽橋本圭三郎氏 は大正四年度實行豫算は實施上甚だしき相違を來したるもの、如しその理由原因如何政府は何故に男子らしく實際上相違を來せる次第を公表せざるやと難ずるに對し

▽武富藏相 は大正四年度實行豫算編成當時政府は昨年八九月頃を以て歐洲戰亂終了の見込なりしに實際然らざりしより從つて相違を來せりと答へ更に時局の收入支出に影響を及ぼせる狀態を數字により說明し次で

▽目賀田男 は既定海軍の計畫は將來如何にして收入を圖るや又艦隊の編成は八八艦隊は確定と云ひ藏相は八四艦隊確定と云ふ其の意何れが眞なる哉と質す

▽武富藏相 八八艦隊の編成は既定計畫にして必ず之れを遂行す可く其の財源は如何なる事情存するも捻出すべし然れ共今日其の財源を確立し置く必要なし又八八艦隊の遂行は海軍の計畫として確定し八四艦隊と云ふは現期着手する事に確定せる計畫なりと辯じ次いで

▽久保田男 は江木千之氏より前議會に考古學講座設置を希望したるに豫算に之が費用の計上無きは如何と質し藏相は是等の必要は政府も認めざるも財政上計上する能はずと答へ正午休憩

休憩後午後二時十分再開劈頭

▽水野錬太郎氏 は海軍補充費に關する明年度以後の分は未確定と云へども之れによりて八四艦隊全部の財源を求めんとする意嚮なりやと問ひたるに藏相は前回同樣の答辯を爲し水野氏更に鐵道費金二千萬圓募債に關する諮問を爲したるに藏相は既に三千八百六十萬圓の募債をなせる以上更に之れを爲すは考慮すべき問題なりと答へ次で

▽目賀田男 は第卅五議會には首相は當分募債せずと言明せしに非ずやと當時首相の演說を引證して追窮するや

▽武富藏相 は當時は正貨の維持を圖らん爲め外債を募集せずして經濟界を圓滿にせんとしたり然るに今日は輸出增加し正貨流入せるを以て之が實施を試みたりと答へ猶目賀田男と藏相との間に押問答あり次で

▽石渡敏一氏 は十五年繼續費に就質問し藏相は當時と今日とは周圍の事情を異にするものなりとの一點張の答辯を爲し午後三時半散會せり(東京特電)

『帝國』署名文書拒絶

我政府は支那官憲の公文書に於て洪憲の年號は承認するも帝國の文字あるものは一切拒絶すべき旨を支那各領事館に訓令し來れり(奉天特電)

勃國と塞土處分

倫敦來電に據れば勃牙利國は塞國領土併合に關する獨逸よりの通告を受けたり(東京電報)

大禮使諸官敍勳

十九日伏見大禮使總裁の宮殿下に菊花頸飾章御親授ありたることは既電の如くなるが其の後同長官以下關係者全部に敍勳の御沙汰ありたり重なるもの左の如し(東京特電)

敍勳一等授旭日大綬章 大禮使長官 鷹司熈通
敍勳一等授瑞寶章 大禮使次官 石原健三
敍勳一等授瑞寶章 大禮使參與官 菅原通敬
敍勳一等授瑞寶章 大禮使參與官 添田壽一
同 平沼騏一郎
同 大島健一
敍勳一等授瑞寶章 大禮使參與官 長崎省吾
授旭日大綬章 大禮使參與官 片山東熊
同 敍勳一等授旭日大綬章(各通) 岩倉具綱

祭粢料御下賜

天皇陛下には去る九日南洋防備隊より歸還せし御用船吉野丸乘組員中橫濱上陸の際風浪の爲め溺死したる趣き聞し召され廿日左の通り祭粢料御下賜の御沙汰ありたり(東京特電)

金十圓 下士官へ
金五圓 兵卒へ

義眼義手下賜

皇后陛下には青島攻圍軍に參加し負傷後手術其の他の事情により手足を失ひたる軍人に對し今回義眼義手御下賜の御沙汰ありたり(東京特電)

松方侯の奉答

松方侯は十九日午前參內拜謁仰付けられ外交重要案件に付き御下問に奉答する所ありたり(東京電報)

黃興來航期

革命黨員黃忠桂の談に據れば黃興氏は來る廿五日頃天洋丸にて米國より日本に來航す可しと(東京電報)

雜報

朝鮮の教育と教員心得(七)
內務部長官 宇佐美勝夫氏談

▲子弟の身體鍛錬 第六項は身體の鍛錬に關する注意なり、强健なる人の世に處し事を成すや、國民として其の本分を完うするにも亦强健なる身體を要することは論を俟たざる所なり、故に教育に於ては大に體育に力を致さゞるべからず、體育に於て注意すべき點は生徒發育の程度に應じて適當の體操を課し、運動遊戲を爲さしむること是れなり、餘りに過度に失し過激に過ぐるが如きものは注意して避くるを要す、然らずんば却つて身體を損傷するの惡結果を來たすものとす、然れども又餘りに愼重に過ぐる時は、却つて無用の保護に過ぎ遂に鍛錬の功を擧ぐること能はざるに至るべし、少しく無理なる所、換言すれば適當の努力を要する所に鍛錬の効現はるゝものなることを記せざるべからず、身體の鍛錬にして奏功せんか、自ら氣力旺盛となり、寒暑風雪にも忍び、困苦缺乏にも耐へ得るの體質を養成し得べし、身體の鍛錬につきては與に本府より發布せられたる體操要目を研究して適當の施設實行を爲すのみならず、季節に應じ、土地の狀況に隨ひ、適當なる運動遊戲を獎勵し、教室の內外を問はず常に相當の注意を施し、苟も體育に資し得べき方法は務めて之を實施せんことを要す、

▲土地と體育方法 世の實際に徵するに體育の重要なることを承諾せざるに拘らず、未だ其の實行の之に伴はざるものあるを見るは頗る遺憾のことゝす、例へば體操要目の研究の未だ不十分なるものあるが如き、或は經費の不足に藉口して簡易輕便なる代用機械の設備すら爲さゞるものあるが如き、或は季節に應じて適當の體育法を講ぜざるが如き、或は土地の狀況に隨ひて之に適應せる體育法を研究施設せざるが如き、或は每週數時間の體操を課することを以て體育の能事畢れりとなし、其の他の時機に於ては之を等閑に附するものあるが如き是れなり、朝鮮從來の弊習を打破して勤勉力行の人たらしめんが爲には、大に訓練に注意して、身體の鍛錬を爲すの要あるは論なき所なり、特に內地人の子弟に在りては殆んど皆是れ移住者なれば更に一層體育に注意して强健なる身體の鍛錬に努むるの要あるは既に第二條に於て示されたる所なり、廣く學者の研究せる所によれば移住者の子孫は概して虛弱なりと云ふ、朝鮮は內地と氣候風土に於て著しき相違なきを以て內地人に執りては恐らく杞憂に過ぎざるべしと雖も兎に角十分なる注意を爲し虛弱の悔を貽さざらんことを要す。

▲卒業後と體育法 又身體の鍛錬は獨り學校在學中に於てのみ勉むべきものにあらずして、一生を通じて常に此の心懸あるを要す、然るに我が國人は一旦校門を辭するや忽ちにして身體の鍛錬を忘却し、或は之を忽諸に附し去るの缺點あり、是れ全然改むべき風習とす、故に學校教育に於ては能く此の點に注意し修學中は勿論卒業後と雖も、自ら進んで日常運動を爲すの氣風を養成し以て益々其の體質を强健ならしむるの方途を講ぜしめんことを期すべき也

敢て帝位に登るや
支那に於ける日米の利害
某將軍談

▲雲南省に蜂起 した南支那の革命亂は時日と共に益々火の手を擴げて來出した樣だ此模樣では日本が警告を發したと云ふ事は大に先見の明があつた事になる譯だ或は袁世凱の手一つでは取鎭める事が出來ないかも知れない、何しろ支那の地方分權には侮るべからざる勢力があつて其上に中央政府の財政は窮乏してるし兵制は完全して居ないし北京にある袁世凱の意の儘には成るまいし交通は極端に不便なのだから仲々今度の事件に關して日本が青木中將を上海に派遣した如きは大に愼重な態度を執つてるのだと言はねばならぬ青木中將は陸軍部內に於て現在殆んど唯一無二の支那通である一見漠然として偉い處も無さ相だが支那に就ての智識は測り知るべからざるものがある單に支那の事情に就てのみならず深く支那人の心中に這入つて支那の國民性を洞察してゐる袁世凱とも交り深く能く其爲人を知つた處があるらしい

▲其唯一の支那通 を特に參謀本部附被仰付と云名義で上海に派遣するに就ては參謀本部の意嚮が大に愼重の態度であると見なければならない支那政府が日本の警告に對して充分な回答をし得ず然も警告の通りに騷亂蜂起するを知り乍ら鎭撫し得ず尚且帝政を實施するに於ては地方の騷亂は益々面倒になつて來るのは當然だ日本帝國にも面目がある支那が其れを踏み付けた態度に出たからと云つて直ちに出兵の理由に成らない事勿論だが萬々一にも支那政府にして强ゐて日本の

▲警告を無視し 雲南を中心とした革命亂の騷擾を其儘に敢て即位式を擧行するに於ては帝國政府は居留民乃至帝國の特殊利權保護の爲めに兵を動かさねばならない事になるかも知れない我軍の憂ふる處は孰れの如き結果である其困難は獨り支那のみならず日本に於ても同樣なのだ兎に角日本の現在の位置は何と云つても東洋の主人だ袁世凱が帝位に登つても登らなくても支那に起り來る問題が日本に關係の無いと云ふ事は無いのだ萬一袁世凱にして强ゐて帝位に即くとすれば卉は袁家をして滅亡を速かならしむるに止まるかも知れないけど日本の支那に於ける利害は尙其以後にも及ぶ事言ふ迄もない然るに今後支那に於て最も日本と密接した關係を持して行く國は米國である

▲米國は日本の爲めに恐れて頻りに比律賓や布哇の問題に就て云々してるが決して日本に其意の無い事は今迄の日本の態度でも判る成程日本には年々七十萬宛の人口が增加して行く或は五千萬石の米作は到底日本の需要を充分にして行くことは出來ないかも知れないけど日本には北海道もあり朝鮮もあり更に滿洲に擴張して行く事も出來る何を好んで他國の領を犯さう然も日本が明治大帝の御宇中に於て著しく領土の膨脹を致したとは言へ決して進んで掠奪したのではなく只國威を保護し利權を擁護したる結果に過ぎない、米國が頻りに軍備の擴張をして警戒してゐる樣に比律賓や布哇の問題で或は支那に於ける利權の關係から起り來る樣な事になりはしないかと憂ふる、無論未來の事である今日之を論ずるは聊か早計かも知れないが支那の將來に於て最も力を致すのが米國である事を思へば豫め熟慮して警戒し能ふべくんば難事無き樣に取計らひ度い老婆心からの言分である

掛賣問題成行
先づ商習慣の調査

京城商業會議所にては例の掛賣代金問題に就き二十日午後二時より委員會を開會し原田會頭外十名出席提案者たる釘本氏よりは左記の議案を提出したり

一、商品代金の延取引は約束手形を以て授受すべきこと
一、約束手形の支拂期日は之を嚴守し必ず勵行すべきこと
一、約束手形の支拂場所にはなるべく自己の取引銀行を指定すべきこと
一、賣掛代金は毎月廿五日にメ切り二日以後に取引先へ配布し必ず末日に決濟すべきこと
一、商人相互間の金取引の場合にはなるべく銀行小切手を用ふべきこと

右に就て協議したる結果尙ほ一應京城に於ける商習慣を遺漏無く調査し然る後其矯弊策を講ずるを可なりとし內地人側を釘本氏に鮮人側を韓相龍氏に委托し兩三日中に調査を行ひたる上本會議に附することゝなり四時散會したり

▲食料品組合決議 實業會の掛賣代金問題に就て直接其影響を蒙るは所謂雜貨商なる食料品組合及び酒商組合なるべし兩組合の御商より取引せる小賣商人は約三百六十軒の多きに達し居り食料品は八割酒商は九割五分を小賣商より顧客に對し掛取引を爲し現金賣買は極めて少し從つて掛賣代金問題は以上二組合のために起したる問題と云ふも不可なかる可しと云ふ右に就き兩組合の委員は十九日松翠樓に會合し協議の結果卸商と小賣商との間は勿論小賣商と顧客との取引も爾今一切月末決濟を勵行することに決議し小賣商には組合より顧客には出入商人より夫々趣意書を印刷して兩三日中に配布する筈なりと

奉天通信

▲政費節減商議 奉天省本年度[illegible]百十萬元に上る[illegible]各署[illegible]方に就き商議せり[illegible]ざるを以て各項の政費を削減することゝし段將軍は金、張兩廳長と共に[illegible]る者なりとて張前巡按使時代より之れが戰設を計畫せしが段將軍は愈々近く之れを實行す可しと

[illegible]費を司法部本年度の豫算に計入せんことを電請したり

▲東蒙古の荒地 支那官憲[illegible]

[illegible]道通川郡[illegible]里香椎大敷網漁場に於ては客年十二月下旬より本月三日迄に大鰤四萬及同郡壹日里同漁場に於て[illegible]止むを得ず內二萬を地方商人に賣却し殘九萬を鹽漬として內地へ移送の手配中なりしと云ふ斯く多漁に於て[illegible]

[illegible]九時頃京城[illegible]洞[illegible]方に年格好四十歲位の內地人一名酒に泥醉して入り來り饅頭一個を食ひたるより其[illegible]へ猶も亂暴を働くより本町署に引致し係警官より嚴重取調べしに此者は東京淺草區三谷町生れ當時京城長谷[illegible]

[illegible]番にては同券番妓百三十名中より昨年中に於ける線香の賣高最も多き者十名を選び成績優秀なるものと認[illegible]

原著は數十版を重ねた稀有の名著
▲英國の文豪…スチグーウンソンの一大傑作
▲若月文學士、帆引徹嚴…西先生苦心の譯述
新版
新アラビヤンナイト
不思議で美くしい物語 上品な家庭讀物
不思議な物語―倫敦大都を中心として起つた怪事件―構想が奇拔で變化に富み人間の弱點も人生の裏面も深刻に突込んで居て忌味が無く―奇談も怪話も戀愛物語も道話も比喩談も皆滑稽味を帶びて居て何となく面白い―小說か寓話か事實話か見當がつかぬ―が青年でも少年でも一度讀んだら二度も三度も讀みたくなる―不思議な美くしい物語―。
▼洋布製函入 ▼頭美本 金壹圓廿錢 送料八錢
東京市京橋南鍋町 振替東京二四八〇〇 榮文舘 發行

破天荒五割引
營業品
□洋家具、窓掛一式
□裝飾品並に敷物
期間 自一月廿二日至卅一日(十日間)
右整理の都合上在庫品全部に限り前記の期間中破天荒の五割引を以て販賣致し候間多少不拘御用命被下度願上候
京城西小門通り 澤山商會支店 電話二三五番

倉橋惣三先生監修
日本幼年
□四十四頁(敎育的な繪片假名の噺)
□雪の鐵砲(ズドン〳〵)(花咲き笑ふ)
□椿の花(ツナイアソブ)(上手に出來た)
□紀元節(イハヘケフノヒ)(親しい友達)
□楠正行(腕白さ温順)(リクラノカレイ)
□笑ひ顏(林の奥の)(オコリガホ ナキガホ)
□玉乘(オモシロイカハリエ)(ダルマトウサギ)
□雪の朝(お目出たい日)(オニ ザシ ハト キ)
□僕の家(わん〳〵)
□電話ごつこ(モシモシドナタ)(騷々しい)
□動物の競走(ウサギガハヤイ)(寢衣着換て)(カメナハナチメ)
□浦島太郎(紀元節の提灯と國旗)
□繪附錄
□二月號 定價拾錢(郵稅貳錢) 半年六拾參錢
東京銀治橋外 振替四千九百 東京社(曾捌全國書店)

品質卓絶中味豊富
優等清酒 金露
攝津灘魚崎 釀造元 大塚釀造所
各地到所信用ある食料品店に販賣せり金露印と御指定御買上被下度候
京城南大門通二丁目 發賣元 大塚京城支店 電話四〇一番 振替口座五七〇番

……之れに對する收入は大十二萬五千元に過ぎざる上に外に假扣す可き外債十七萬五千元ありて到底收支相償はず
……く一昨年本溪湖事件の如きは全く電話なき爲めに官憲側が不覺を取りた
……審判廳は段將軍は先づ之れを鐵嶺及び遼陽の二縣に設立するに決し其經
……一萬二千八百八十四分なりと

◉通川漁場の鯖大漁　江原
……大漁ありしを以て生魚のまゝ內地へ移送せんとせしも風波の爲め能はず

……非ずやと云へり

◉泥醉して亂暴　十九日午後
……より交番より詰合ひの警官が出張して取調べしも住所氏名は知らずと答

◉藝妓の成績表彰　京城券
……玉の上引下りたり
……の新年宴會を催ふす由

東京大相撲

（二十日午後東京支局特電）

東京大相撲の人氣益々良好にて七日目は眞砂石對大錦大鳴門對對馬洋鶴渡對栃木山等の番狂はせあり大に景氣を添へたりその勝負左の如し

▲七日目の勝負

平の石　荒角　　黑緘　四國洋
國見崎　高千穗　　成瀨山　擧ケ浦
稻葉嶽　藤ケ谷　　荊藻川　立昇
玉の川　逆鉾　　近江富士　小錦
敷島　宮城山　　源氏山　紅葉川
八甲山　龍ケ崎　　梅川　鳴門洋
宇都宮　千年川
九州山　金の花
紫雲龍　石山
鶴渡　栃木山
綾川　預　黑瀨川
兩國　玉手山
西の海　大蛇潟

▲中入後

寒玉子　預　朝綠
柏戶　大の川
四海波　分　玉椿
稻の穗　岩木山
土州山　小常陸
釋迦嶽　鳳
大鳴門　對馬洋
眞砂石　大錦

右の內■逆鉾に玉の川　玉例の通り下手に入らんとするを逆鉾と叩きしも玉よく殘して右を差し逆の左手を押へ得意の頭捻りを引かんとしたれど逆殘せば然らばと頭を敵の左腋の下に突込み反りながら寄切つての勝■十八番■近江富士に小錦は突張りしが利かず右を差し寄り切つて近江の勝■宮城山に敷島は右四つ敷左上手を引いて吊るを宮城殘して反對に吊り進みしが敷土俵際に殘し廻り込んで吊り出し敷の勝■源氏山●紅葉川●は元氣同志の好取組なりし紅葉鋭く突張り進むを源氏土俵際に危く殘して反對に攻勢を取りて突き進み左手に紅葉の腮を攻めて押切らんとする紅葉行司溜りの上に殘して又突返す出鼻を源氏紅葉の左手を引かけ紅葉が狼狽するを透さず進二無二突張つて遂ひに正面溜りの上へ突き出し源氏の勝は大喝采■龍ケ崎に八甲山　突き合ひ八右を差し左上手を筈に當てゝ押切つて勝■鳴門洋に梅川　梅例の通り突張り鳴門の突き返す出鼻を十八番の叩き込みにて勝■宇都宮に千年川は右四つ千年の出鼻を肩透かしにて宇都の勝

■紫雲龍に石山

は石飛び込んで懐ろに入らんとするを捻つて紫雲の勝■九州山に金の花はバッタリ左四つに渡るや九州一氣に寄り進み金が土俵際に殘さんとするを突き放して九州の勝

■栃木山に鶴渡

はガッキと右四つに渡るや鶴左上手を引き彌引に吊り進むを栃木土俵を渡つて殘し廻し込んで下手投を打つを鶴殘すと共に上手投を打返し鶴の勝は大喝采なりき。

■綾川に黑瀨川

は左四つ黑瀨の寄るを綾殘して下手投で土俵に落す四本柱の檢査員等も別に立ち上りもせず頗る簡單に預り

■兩國に玉手山

は好取組なりバッタリ左四つに渡るや玉手勝手違ひながら差手に褌を引きがつて之れから一仕事といふ時兩國頭を敵の胸に當てゝ十分に喰ひ下り上げると見せ玉手の堪ふる所をグイと前へ曳けば玉手膝を突いて兩の勝は大喝采なり

■西の海に大蛇潟

は左四つ大蛇下手投或は捻りを見せて寄るを西土俵を廻つて殘し今度は西より攻勢を取つて寄り進み大蛇が土俵際に殘すを左手を拔き押倒して西の勝■釋迦ケ嶽に鳳●は釋迦の二本差しを鳳門に極めて一振り強引に極め出しての勝は初めて横綱鳳らしき相撲を見せたり

▲中入後

●朝綠●に寒玉子●突き合ひ右四つ下手投げの同體で預りは双方に怪我なくて目出度し■大の川に柏戶●は突き合ひ柏一流の滅茶突きに突張れば大のも追がにタヂ／＼として例の引落

本日の勝負豫想取組
（左）金の花　（右）釋迦ケ嶽

しに行く隙もなく受け流してゐる內柏突き放せば大の宙を飛んで尻餠を突しは滑稽なりき■四海波に玉椿は玉左を差さんとするを四海防げば玉右筈を當てゝ押進み二本差となるを四海門に極めしまゝ利かず水入後前同樣にて引分■岩木山に稻の穗●左手を引掛けて廻り込み突張り進む岩木烈しく突きかけ稻の突き返へすを稻廻り込まんとして踏切る■小常陸●に土州山●は烈しく突き合ひ土州右差となれば小常それを片門に極めて強引に極め出さんとするを土州嫌つて突き拔け又突き合ひ小手をため合つて押合ふ內土州再三蹴返しを見せて敵の氣勢を挫き懐ろに突き入り劍み足に押し進み小常が土俵を廻つて殘さんとするを右上手を筈に當てゝ突き放し土州の勝は壯烈なる大相撲

■對馬洋に大鳴門

は鳴門鋭く突張り對馬が殘して突き返すを鳴門叩けば對馬のめつて危く手を突かんとしたるが殘して廻り込むを鳴門その左手を手繰つて引落したる對馬既に手を突きしが鳴門は更にだめを押して再びその手を取つて引き落したるは滑稽なりき

■大錦に眞砂石

は眞砂寄り突いて立つを錦一つ突き返して眞砂が再び來るをイナさんとする所を突き出して眞砂の勝は大番狂はせにて滿場の大喝采を博し打ち出したり

▲八日目の取組

荊藻川—近江富士　敷島—源氏山　玉椿—逆鉾　小錦—龍ケ崎
稻の穗—大の川　玉の川—鳴門洋　千年川—紫雲龍　八甲山—岩木山
土州山—九州山　石山—小常陸　眞砂石—兩國
大鳴門—栃木山　大蛇潟—大錦　鳳—對馬洋

▲中入後

寒玉子—宮城山　柏戶—朝綠　紅葉川—宇都宮　鶴渡—四海波
金の花—釋迦嶽　玉手山—綾川　黑瀨川—西の海

右の內金の花に釋迦ケ嶽は勝負豫想懸賞取組にして前場所顏合なかりし丈一層面白かるべし

◉今度は愈眞物らしい
南支の風雲奈何―某將軍縱横談

今度の南支那の動亂は眞物になり相だ、雲南、貴州と云ふ地方は何しろ彼の廣い支那でも奧の奥なのだから仲々厄介だ討伐に行くと云つても

▲鳥渡は手が屆かぬ

第一中央政府には金が無いから思ふ樣にも行かぬよ討伐軍が愚圖ついてゐるうちに革命軍の方ぢや時日が經てば經つ程地盤も固まつて來るし隨つて討伐に困難を來しても來る譯だから然も中央政府の憂慮は南部許りでなく京奉線を窺ふ六千餘の馬賊團匪の一隊があり更に張家口を襲はうとしてる團匪團がある前門後門虎狼に迫られてる譯なのだ更に玆に宗社黨が旗揚げでもすると愈々問題が大きくなつて來るんだが其れも唯袁總統の遣り方奈何にある即ち

▲時日の問題のみだ

袁總統が此際強ひて帝位に登らうとしてるのは皇帝と云ふ名と力とで壓迫しようと云ふ譯なのだらうが此邊の處はまるで嬰兒の戲だと外思へないね帝政實施を各國が承認してくれゝば其各國の承認と云ふ事を以て革命軍に對しての威嚇にする積りなのだらうけれど其れ既に不思議千萬だ現に袁總統の地位と行爲は立派な大皇帝ぢや無いか名目が變つた許りで威嚇される樣な革命軍でも無さ相なものだ然し袁總統は強つて帝政にすると云つてるんだから今後の支那が益々注意しなければならなくなつて來るんだ此際最も注視しなければならないのは二月上旬だ何でも六日とか九日とかには

▲是が非でも即位式

を擧げると云ふ事だが夫れ迄に列國の承認が集められるか怎か一方其態度を無理をすれば今迄の曖昧な態度を執つてゐた各省が勢ひ革命軍に加擔する樣な事になるかもしれぬ、事は益々大きくなる許りだ、然も此時日本の態度は奈何？既に第一第二の警告迄出してる以上其れを無視して迄即位式を擧げる樣な不遜な態度に對して日本は如何に處する歟大に注目に値ひする差當り支那革命に對しての一段が二月上旬につかうと云ふものだ

◉昨夜の月蝕
雲の爲め觀測不可能

二十日夜間の月蝕は仁川觀測所に於て天文係りの伊藤、柴野兩技師が早くから望遠鏡を据えて待ち構へて居たところ月は地平線上に現れ來る以前に於て既に虧げて居たが時刻は豫ての推算通り午後五時三十八分に正確に現れ角度は卅九分半であつた、併し間も無く地平線上に雲影が現れた爲め月は遺憾ながら影を隱したが後五時四十四分に至つて再び見え出した、此の時の蝕甚は一分四厘程虧げて居たが後又雲の爲めに生憎にも赤影を隱した、それから又午後六時二分に至つて一度現れたが何分雲の爲めに隱見出沒して遺憾ながら充分の觀測は不可能であつた其の後雲散じて後六時十二分再び月現れ更に六時二十二分に至つて薄雲の裡にかくれた、それで望遠鏡を熟視して居た兩技師も生憎の雲の爲めに正確な觀測は能きなかつた時刻は豫ての推算と全く一致して居たと（仁川支局）

◉名幅逸品
元明清諸大家の遺墨の陳列

過回入京した加藤八重麿氏は多年支那に在つて貿易商に從事した人であるが氏は自分の骨董癖から思ひ附いて從來十數年間支那各地に於て蒐集した元、明、清各時代大家の

▽遺墨數十點を携へ

て來たので昨今京城の同好者間には邦々の評判である、就中王陽明、陳獻章、黄道周の肉筆の如きは其の人格が支那に於ては師標同樣に尊崇された人でもあり且つ又孔子廟に合祠された諸先生のことであるから實に稀代の珍品と云ふも不可なきであらう其の他倪元璐、楊文驄、那彦住、藍田叔、董其昌、沈南蘋等々何れもとり／＼に珍らしき逸品のみであるが先づ李王殿下には過日昌德宮通明殿に於て李埈公以下井澤榮侯李完用伯等と共に親しく數十點の品を御台覽あり殊に王陽明の肉筆及び董其昌の幅に就て御激賞遊ばされたやうであつた、加藤氏は猶ほ一般

▽同好家の批判を乞ふ

爲め來る二十二日二十三日の兩日巴城館樓上に於て展覽會を催ふす由であるが好事者にとつては非常な觀物であらう、又氏の所藏せる王陽明先生綸像は氏が自ら支那浙江省の紹興に赴き同地の陽明先生祠字に於て拓搨せるもので之れも從來曾て世間に見えざる珍品であつて東京に於ては陽明學者の三島中洲先生が非常に珍重され猶ほ又下田歌子女史は實踐女學校に於ける教育の神髓なりとして何れも分與を乞はれたとのことである、又氏の所藏中の倪元璐肉筆の如きは曾て

▽賴山陽が愛翫した

ものを明治十年木戶侯が愛藏され後岩崎に一萬圓で買はれた程のものであるから這回支那で求めた品も蓋し非常な逸品であるといへる其の他那彦住の筆の如きは現に長崎の小倉根氏の所藏品が同地名物の一つに算へられつゝある程であるから氏の所藏する山水畫一幅も亦得難き逸品であらう、寫眞は我が國に於て有名なる沈南蘋筆の「勇馬敏猿」の圖であるが南蘋は我が寶曆年間幕府の聘に應じて我國に渡來した第一流の畫家として我が四條圓山派の祖を爲したる人で歸國に臨み幕府より贈られたる

▽黄金五千兩を悉く

船夫に與へた逸話は小倉瑞圃の書にも有名である、猶ほ是等は何れも新たに支那各地に於て加藤氏が買ひ求めた逸品であるが猶ほ古雅愛すべき周代の銅器も多數見えるやうであつた

沈南蘋筆「勇馬敏猿の圖」

◉光榮ある入選者
萬葉調の作者 通泰門下才媛

入選者の首席なる小林守直氏は幼にして穎悟七歲にして和歌を學び後ち師範學校に入り終に萬葉調の作歌に丹誠を凝らし殆んど獨學研究をなしたるものなり第二位當選者德永もと子は德永理學博士の夫人にして學習院女子部出身本年三十歲の才媛なり學校時代より井上通泰氏の門に入りて秀才の譽あり去四十二年『雪中松』に『たかむらは雪にうもれて老松の一もと高く見ゆる庭かな』の一首を詠じ入選したることあり（東京特電）

◉俘虜、巡警と携へて逃亡す

露國俘虜一名巡警と共に二百五十圓を持ち行衞不明となれり（長春電報）

■燕左衛門を聽く

早稻田の學生素人の子弟が浪花節語りとなりたりとて珍奇とするに足らざれども、昔は生粋の藝人でなく、且新聲、旅入り藝人、善く云へば革新家の先鋒として一生面を開くべき時世の產物として俗人の好奇心をそゝる價値はなきにしも非ずである、素聲の前丹より應世して今では數十萬の身代を作り上げたる雲にも盜らむ野心をかくして……らく發とへりくだり、何時かは天晴の評を逃せんとする本名新吉再び京城に來りて僕に批評を求む。昨年伊藤痴遊來りて特等一圓三十錢の暴利を貪りながら二十日に於ける逆目の大入を占めたることあり、僕一夜其の三席を立通しに聞きて歌ざりき、彼の講談は一種の妙味あり、理路一貫の情裕纏綿の間に在る、人の胸膽を澆く所以なり、燕左衛門若し新奇を趁ずして講談師となりたらんには痴遊にも劣らざるべし、纏綿に於て遜色彼に讓るとも、學識に於て彼を凌駕せむも疑ひなし、惜むらくは燕君古賀博士等の傀儡にして造過ぎ張りて浪花節語となりたることを、浪花節は一種の聲樂にして節を貴ぶ、咽喉が大切なり、燕は對話に於て斯界稀に見るの妙手にして名人の域に達す、されど聲量足らず、足らざるが故に成るべく節を省く、虎丸に能く似たり、奈良丸は對話の名人なれども節捌くて少し、奈良丸の以は對話無茶なるも節で誤魔化す、虎と奈良の間は差引同位にあるも節廻の巧なるだけ巧なるより遙かに世人の受くる所となる、對話は節廻と對話と共に巧妙なり、成功したる以所なり、燕は先年京城に來りし時より節も少しく上達せり對話に達でたれば新物を語りて人氣者丸や奈良などの比に非ず、然るに其の大が聲の劣勢に及ばざる所以のもの、主として小さきに依る、若や燕や節もまづく加ふるに聞えしければテニヲハの誤り理路の不通なす、而して俗人の餌體な満くは愛嬌なければ藝人は愛嬌が肝腎なり、燕にして講談師となりたりとて痴遊の愛嬌なければ何程の講談がうまくとも成功は覺束なし、況んや浪花節に於てをや、節と聲とが一層練磨せば浪界の泰斗たるに於て強さまで論しとせず、之に加ふるに人を惹き付くる愛嬌を以てせば大入滿員疑ひなし、燕君勉めよやである、今回の一行は巧者揃なり北海入道の如き鍛の擬物として蓄音器にても入れたらんには殆んど前代を刎別しがたかるべし松子は琵琶の上にこそ出でがたきも、他の女流にして京城に來りし者には一歩も讓らざるべし香有工門は相當の見込あるも折々節の適用を誤る癖あり、むら氣は未だ舌が廻らず、併し規物としては聽つるにも及ばざるべし。（飛耳生）

◉張作霖へ爆裂彈
帝政反對派の所爲乎

十九日夜張二十七師長に爆裂彈を贈れる者あり其犯人は不明なるも多分革命黨又は帝政反對派の所爲なるべしとて目下嚴重に搜索中なり（奉天特電）

讀者文藝（一等には五十錢の書籍切手贈呈）

―□短歌□―

○女てふ床しかる名を持つ故に雪夜の路を君と歩ます（一等）　京城　須古匠泉花
○うす青き雪の夜なるにいづこにか旅立たむさす馬の鈴の音　奉天　緒方砂丘愁
△雪みちにひよつくり逢ひしなんなれ胸に十字架光りけるはも　仁川　淺草いてふ
○振り返り見ずや旅人汝が行きし遠き街路に夕陽うすろゝ　京城　川上南花
○雪路往き思ひ亂して目あぐれば馳の跡の前から走れる　京城　苔の香
○いちろく鐘路大路を雪降れり青磁貧る家の黄色オ仙　京城　古都子
○鐘路踏む我が影へし旅人の顔の如く淋し冷し　仁川　天涯生
○此の國の頽れるまゝの道のこと罰し淸ぎなや諸らまし　龍山　秋月
○雪路に亂れし君と我が足の跡見返れば悲しかりける　京城　太吉
○高原の雪路は悲し大いなる黄き太陽あかくと照る　春川　木耳
○次回以下數回課題『冬雜』締切期日は廿二日

◉生徒募集
本年四月入學セシムベキ本校第一學年生徒約百五拾名ヲ募集ス詳細ハ一月十九日以後五日間ノ朝鮮總督府官報又ハ本校ニ就キテ承合スベシ
大正五年一月
京城中學校

◉店員入用　十五六歲の者數名
京城本町二丁目
龜屋商店

滿洲五龍背溫泉
■安奉沿線五龍背驛を距る二丁
■閑靜にして避暑に宜しく避寒に宜し
■風光絕佳にして一大築園地なり
■諸病に特効あり理想的療養場なり
■宿泊、下宿、自炊、各樣の設備あり

京日案內

◉普通　一回前金三十錢（無割引）各名一回每に金五錢增

◉見習看護婦四名入用　希望者は本人至急來談あれ
○京城南大門驛前へ　小川病院　262

◉おチヨボ入用　十三四歲の悧發なる少女を雇ひたし望みの方は來談あれ
○仁川敷島　第二敷島樓　258

▲タイプライター確實（保險附）修繕　ツヅキ自轉車商會
京城南大門通三　電話三三一〇番　240

◉番外　一回前金六十錢（無割引）各名一回每に金五錢增

勸業◉貯蓄債券　高價買入
▲同月賦　濟州商業銀行內鮮債券部
京城太平通二丁目　電話二八三一番　268

京城大和町一丁目日の出橋下る
小兒科　內科　爲春堂醫院　院主　古城偈吉
（電話九二八番）　267

◉兵庫縣人會
日時　壹月廿三日午後五時
場所　清華亭
會費　武圓五拾錢
▲申込所　黄金町二　白井勝悟
▲餘興　和洋音樂淨瑠璃　266

▲下宿屋讓り度し
京城本町一丁目尤目拔の裏通り市內出入に至便目下任宿者數多あり內地引揚に付至急其儘讓り度し姓名在社　266

◉見習看護婦募集
希望者本人直接午後二時迄に來談
旭町二ノ壹三　若槻醫院　電話二四六二番　265

皮膚病　花柳病　專門　須古醫院
京城永樂町一商品陳列館坂の上　電話二一〇二番　243

質　堀佐營業所
京城黄金町二丁目（永樂町派出所北入）　電話六三九番　232

恩給年金類立替
京城武橋町二十三番地　京城日報社北右に入　國江商會　電話二二八三番　225

▲靴　御小賣大勉强並に修理　堅牢優美且價格大廉價　寸法用法御一報次第目錄定價表進呈
京城壽町廿　電話七〇九　エビス屋靴店　231

公證人　山邊勇輔
京城永樂町二丁目十七番地　電話二八四〇番　244

藥種子　食料品　雜貨商　山田商店
龍山漢江通十三番地　電話五二七番　255

新刊書御案內

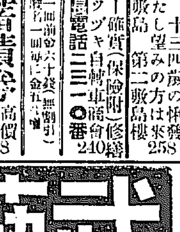
書名	著者	定價
詩傳乃木大將	兒玉花外	八〇
朱葉集	品子	一、〇〇
父の書簡（增訂新版）	德川忠雄	一、〇〇
白隱禪師言行錄	高橋竹迷	一、〇〇
禪澤論	吉川王堂	一、二〇
遂磨	松本文三郎	一、二〇
獨逸皇帝大野心論	樋口麗陽	八五
金	ぞら著　飯田旗軒譯	一、七〇
悲しき思ひ出	岩下小葉	四〇
平和か鐵血か	七十名家論述	一、三〇
現代世界の趨勢と將來の發展（揃六冊）	高畠駒吉	七、五〇
修養一ケ年	岡田	五〇
家庭と學生	大町桂月	三五
眼と神經衰弱	前田珍男子	七〇
瓦斯發動機と瓦斯力發電所	永雄節郎	二、二〇
機械工學要覽	八田志神思	一、三〇
貸倒豫防貸金回收の秘訣	北川滴九	八〇
改正戶籍法解說	繁田保吉	三、八〇
假名貞觀政要	民友社	一、〇〇
現今名家碁戰　卷の二		一、〇〇
新撰圍碁全集	鈴木爲次郎	一、〇〇
蘇峰文選	民友社	特二、五〇

大阪屋號書店
京城本町　電話二〇八六番　振替京城二五七三

武藝講義錄

新式　通俗平易、小學上級生でも一讀直ちに了解し得らる。
●四六判携帶至便　六ヶ月にて終結す　毎卷部分完結
●武道秘訣講義
●帝國劍道形講義
●劍道獨習講義
●柔術圖解講義
●婦人小太刀講義
●乘馬術講義
●海軍戰術講義
●捕縄術講義
此他拾數種あり。
安價　一部二十錢　全部六冊一圓　送料四錢　送料廿四錢
東京小石川茗荷谷　武藝社　振替東京二九七八〇

●新荷著アンクル式片側懷中時計●
機械堅牢示針正確撥條良質　然も實用的に低廉なる事天下無比



右は今回新着の商品にて本商會限り他に無き所のもの伏して御注文の程願上候　御急ぎの方には代金引換にて御送附申上候　小包郵便にて地方迄御送附可申上候

時計蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒、各國直輸入商
イングレッシー商會
本店　京城本町二丁目電話九七二番

千生瓢（103）

須藤南翠作　筒井年峰畫

死戰

太刀を收めて、悠然として馬を廻す。盛政を迎へて、勝久は鎧の袖に縋り、

「只今の御振舞、異朝の樊噲は兎も知らぬ事ながら、我が朝にては、恐らく空前の御働き、後世とても二人と有らうとは存じ申さぬ。權六幸ひに御陣に參り、目のあたり鬼神の如き勇戰を拜見致すこと、一期の歡び何ものか是れに越し申さう。生前の面目、死後の恐れとは、誠此事おざります。此れを機會に早く本陣に歸られて、後日の軍議を凝らさせられい」と、諫むるのであつた。

盛政は呵々とうち笑つて、

「權六、御身は物を心得ぬ事を言ふ人ぢやよ」と、遙かに敵軍を指ざし示した。

「見やれ、敵は軍に負けて、あれ、あの如く勢が加はる、味方は軍に勝つたとは申せ、一人も馳せ加はる新手はおざらぬ。是れ正しく當家滅亡の秋が來たのぢや」

盛政が敵軍を睨み詰めた眼からは冷たい涙が領手に零れた。勝久は異樣の目を擧げてそれを視た。

「今度の合戰、玄蕃が一端の勝に慢じて、深入したばかりに、恢復されぬ大敗を招いたと、伯父公も想はつしやらう、御身も思はう。また先手御陣の大將分も思うであらう。が、決して左樣ではおざない。畢竟するに柴田勝家が武威衰へ、家滅ぶべき天運の循環したのぢや。其證如何と申すに、賴み切つたる前田又左衞門が二心、金森五郎八入道が變心、是れ皆勝家の德薄うして、大切の合戰に、肝要の味方を喪うた第一の手違ひおざる。勝家の武威衰へ、德望の厚からざる證據は、北國の百姓共、只一人として陣見舞に參上する者がない事ぢや。疑はしくば敵方を見させられ、柴田丹羽と指を折られた右大臣家の老臣、その五郎左衞門長秀は、筑前の加勢として、第一番に玄蕃を攻め落したぢや。其外名ある大名ども、皆猿冠者が節度を受けて、手足の如く働らき居る。今こそ一矢も放たぬが、又左衞門も正しく秀吉に同心の者、五郎八入道の如きは、無二の味方となるは定ぢやよ。權六此處を能く聞かせ。江北の百姓共、以前は秀吉が領國の誼みはあるが、其の後は柴田が領分となつて、伊賀守勝豐を領主と頂いた者共ぢやに、秀吉一旗を出すと、簞食壺漿して之を迎へ、赤子の慈母を慕ふが如く悦こんで其用を致し居る。陣見舞さへせぬ越前領の百姓と、何といふ相違であらうぞ。彼方には諸大名の面々、二心なく親しみ睦み、此方では年來の入魂も、掌かへす變心の擧動、所詮勝敗は之れに由つて定まつておざる。修理亮殿、多年蒞政を心がけ、民百姓を慈しむこと、吾が子の如くせられたれど、旗下の諸將は離反し、領民までも領主に心を憑せざる事、柴田が武威地に墜ちて、滅亡の秋來つたる證據でおざるまいか。權六、想へば殘念口惜しいが、もはや天運は猿冠者の頭に舍つた。彼が天下の主となるは、此一戰で定まつたは。無念ながら天の心は致し方ない。自然に離く人の心は、引き留める力を有たぬは。噫、權六、不肖ながら玄蕃尉盛政、斯くして此處に踏み止まる間は、伯父公も修理亮にて在すであらうが、玄蕃一たび此處を退かうならば、もはや伯父公の身は安泰でない。權六、兎角の意見今は無益ぢや。斯ほどに申す玄蕃允が心の底を分つたなら、疾く立ち歸つて伯父公を促し、今の間に越前に立ち歸つて嚴重に籠城なし、心靜かに生害めさるゝやう賴み申す。權六、了解つたか」と理を盡くして、說き諭した。

勝久は常になき玄蕃允の長物語を默然として傾聽してゐたが、其說く所悉く道理に叶ひて、また一言の返すべき詞がなかつた。

「寄せたわ〳〵、天晴の大軍や。此大勢を催しながら、玄蕃一人を討ち得ぬ事の笑止さよ」と、呵々とうち笑つた。

讀者の領分

今年程暖かい事はない最う寒くならないのだらうか測候所の豫言が聞きたい（好々爺）▲此頃又々交換手が大分橫柄になつた小言をやめて居るとすぐ之れだ困つたものだね小供と交換手には目が放されぬ取扱者の御注意お察し申します（老モシ〳〵式部）▲朝鮮人の溫突の煙出しは可成高くして貰ひたい內には煙突のないのもあるから夜の朝鮮町は煙の海を泳ぐ樣で目や鼻が痛い（北部衞生家）▲夜中提灯も持たずに松葉サリョーと出し拔けにやらるゝのには驚く殊に物騷千萬だ（南山町生）▲一時大分騷いだ狂犬は最う京城には居ませぬか此頃狂犬の事を少しも聞かぬのは好いが其の代り猩紅熱には恐れ入る何うかして全滅する事は出來ぬのだらうか（學生の父兄）▲京城の諸曲界は非常に盛んなものだが其の間には大分流派の暗鬪があるらしい記者樣申し上げませうか（ボン〳〵生）▲米屋の桝の切れる事と酒屋の酒を違へる事と砂糖屋の匁目の違つて居る事には甚く會議所でも斯う云ふ處へ注目したら好からう（世話屋燒藏）▲鐵原邑の關門たる銀行前の道路上に數十頭の薪牛を牽き集め薪炭の賣買を行ひつゝあるは鐵原邑の體裁に係るのみならず通行者の迷惑多大にして既に交通妨害の行爲と認む市場管理當局者の考究を促す如何（杳公生）

京城南大門通三丁目（腸本商店橫入る）
入院隨意　胃腸病院
院主　佐々木杏造　電話一六五九番

新刊紹介

▲人格と幸福（四の一）定價金五錢京都祇園萬壽小路東山通西入明治修養會 ▲少女（二月號）定價金十五錢東京々橋區南鍋町二の一二時事新報社 ▲經世（九五）定價金十三錢東京市芝田村町六共社 ▲皮革世界（一〇の一）定價金十錢東京市淺草區吉野町八三其社 ▲警察新聞（三五九）定價金五錢東京市芝愛宕下二の一四其社 ▲法學新報（二六の一）定價金廿錢東京市神田錦町二の二其社 ▲能樂畫報（九の一）嘉居陛下御製小謠千代のかざしに節付したる石版刷を卷頭に天覽能の寫眞廿一葉を添へ寶生九郎、觀世元滋、喜多六平太、梅若萬三郎其他知名の能役者の研究あり [illegible] ▲飛行少年（二月號）東京市京橋區日吉町八日本飛行研究會 ▲高等催眠學講義錄（第一卷）先づ催眠術の歷史を說き現今の趨勢に及びたり其道に心ある人の一讀の價あり（定價不明）東京市芝區學中町三精神研究會 ▲戰友（六七）定價金七錢東京麴町飯田町二の五二帝國在鄕軍人會本部 ▲婦人週報（二の一七）其社 ▲都會及農村（二の一）定價金四錢五厘東京牛込市谷田町 ▲鑛業新報（一六九）定價金十五錢東京麴町富士見町五の九其社

京城學校組合告示第一號

京城學校組合區域內ニ居住スル內地人兒童ニシテ明治四十二年（己酉）四月二日ヨリ同四十三年（庚戌）四月一日マテニ出生シタル者ハ來ル四月一日ヲ以テ就學ノ始期ニ達スルニヨリ右學齡兒童保護者ハ所定ノ入學書ニ戶籍謄本若ハ抄本ヲ添ヘ來ル二月二十九日限リ京城學校組合又ハ京城府龍山出張所ニ提出スヘシ

大正五年一月十日　朝鮮總督府府尹　金谷充

人事吉凶並に家相鑑定所
右部合に依り總監部通り大和倶樂部前に移轉仕候間舊に倍し御來館あらんことを祈る
大和町倶樂部前　易學士　桐原象考

本社電話番號

當分の間構內接續電話を廢し凡て局直通電話にて左の通り御呼出被下度候

編輯用　光三四五番　一二一四番
營業用　長三二六番　六六〇番
發送用　二六一六番

商況

大阪三品 [illegible]

大阪期米特電（二十日）五月限 二三五〇 六月限 二三〇〇 [illegible]

東京期米特電 二月限 九〇二八八 二六〇〇六一 [illegible]

仁川米豆取引所 ▲二十日後場 [illegible]

▲後場小康 [illegible]

▲下岐れ乎否乎 [illegible]

後場　寄付 十一圓二十六錢　止 十一圓二十錢　高値 十一圓二十二錢　安値 十一圓十六錢

賣買取組高　一月限 二百石　二月限 四千二百石

千頁の大冊定價五拾錢

大正五年 國民年鑑

三度の飯は二度にて可也と論ずる者あれど國民年鑑の不必要を唱ふる者の日本國民中唯一人も有らざる可し

國民年鑑目次

◎大禮記 ▲大禮前記、大禮の準備、當日點定の儀、大禮延期、大禮使と大禮使、諸儀式御日取と大禮擧行地、期日奉告、齋田點定の儀 ▲大禮不儀、賢所移御の儀、東京、京都 ▲即位大禮、皇靈殿神殿へ奉告の儀、紫宸殿の御儀、賢所神樂の儀 ▲大嘗祭、御禊大祓の儀、神宮皇靈殿並に官國幣社に勅使發遣の儀、大嘗祭前一日鎭魂の儀、賢所御饌供進の儀、皇靈殿神殿に動使發遣の儀、神宮奉幣の儀 ▲大嘗祭本儀、悠紀殿供饌の儀、主基殿供饌の儀 ▲大禮後儀、大嘗祭後一日鎭祭の儀、大饗の儀、大禮後大饗宴第二日の儀、大禮後大饗夜宴の儀、神宮親謁の儀、神武天皇山陵親謁の儀、前帝四代の山陵親謁の儀、東京に還幸の儀、賢所溫明殿に還御の儀、大禮雜記、恩赦、賜位、叙位叙勳、養老賑恤、神社昇格、文部省大典記念事業、各地方賜饌、東京市の奉祝、京都市の奉祝、大阪市の奉祝、授爵、觀兵式及觀艦式

◎一般事項 皇室、領土及土地、氣象、人口、政治、外交、軍事、財政及金融、農業、牧畜業、林業、漁業、鑛業、工業、電氣及瓦斯業、商業、外國貿易、交通、鐵道、海運、通信、宗教、教育、表彰、圖書館及出版物、衞生、慈善、司法、警察、美術、文藝、演藝、歌舞音曲、相撲、運動遊戲、大正四年一月以降の重要事件、東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戶市、名古屋市、北海道、朝鮮、臺灣、關東州、滿洲、樺太、在米日本人の發展、英吉利、濠洲聯邦、佛蘭西、獨逸、露西亞、墺地利、洪牙利、伊太利、北米合衆國、支那、過去帳

◎現代人物一覽 日本の部、朝鮮の部、支那の部、歐米の部

◎銀行會社一覽 大正五年略曆、年曆、年齡早見表、滿年算月表

本書索引の一節

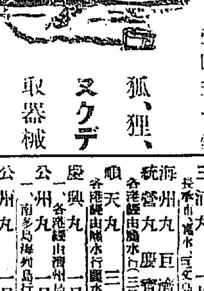
◎位置（日本）◎市場◎醫學聯合大會◎醫師◎伊太利▲土地の利用▲陸軍▲離婚率▲王室▲王室費▲海運▲海軍▲外國貿易▲家畜▲內閣▲軍艦▲軍港及要港▲富力▲財政▲砂糖▲議會▲教育▲漁業▲面積▲人口▲宗教▲祝祭日▲生產及死亡◎英吉利▲土地の利用▲領土▲陸軍▲離婚率▲海運▲海軍▲外國貿易▲家畜▲大學▲內閣▲農業▲軍艦▲軍港及要港▲富力▲物價▲鑛業▲皇室費▲鐵▲財政▲產業▲議會▲教育▲漁業▲面積▲宗教▲祝祭日▲人口▲製造業▲生產及死亡▲石炭▲船舶◎移民◎意匠登錄◎印度◎印紙稅◎飮食店

大取次所　京城太平町一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部

瓢水味淋　堺 鳥嶋 釀
專賣店　京城本町二丁目　前田酒店

石炭　明治町一　村山商行　電話一〇五一

米國ビクター會社製
獸類捕獲器　壹個　壹圓五十錢
狐、狸、ヌクテ取器械



仁川濱町　京日仁川代理部

日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行
相模丸　一月廿八日　正午出帆
竹島丸　二月四日　正午出帆
高砂丸　二月十二日　正午出帆
仁川海岸町一丁目　電話十一　堀回漕部

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戶、大阪行　神丸　一月　日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行　神丸　月　日後十時出帆
○門司、神戶、大阪行　小倉丸　一月　日後五時出
○元山、城津、浦鹽行　小倉丸　月　日後十時出
○元山、西湖、新浦、城津、清津行　第三琴平丸　一月　日後九時出
○門司、宇品、神戶、大阪行　第三琴平丸　月　日後六時出
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行　大與丸　毎月三日九日十五日廿一日廿六日　午後十時出帆
釜山大倉町　本船取扱店　大池回漕部

共同汽船仁川出帆

（三）共同丸　芝罘、大連行　一月廿三日後二時入一月廿五日前九時出
大連にて滿鐵並に其他に接續仕候
（二）阪鶴丸　城津、清津、浦鹽行（元山出帆）　月　日後九時出港
第一西湖津沿岸各港を經て雄基行（元山出帆）第三共同丸　月　日前八時出帆
阿波國共同汽船株式會社
本町一丁目（電話一〇八番）　仁川代理店　山下回漕部
曙町（電話二四四七番）　元山代理店　田口回漕部
南大門電話（二六八、二〇一七）　京城取次店　河村運送店

大阪商船仁川出帆

○外航所屬航路（遠洋航路を除く）は通航便の時は五分引なり以て連絡切符發賣仕候
○群山、木浦、釜山、關門、神戶、大阪行　油頭丸　二月二日　午後五時出帆
×天智丸　一月廿六日
×須磨丸　一月三十日
○木浦、釜山、長崎行▲は嚴原鄉ノ浦に寄港　安東丸　一月廿一日　午後二時出帆
▲城津丸　一月廿八日
×○大連行　安東丸　一月廿一日　午後二時出帆
城津丸　一月廿八日
◎群山、神戶大阪行　溫州丸　一月廿四日　後五時出
○群山、釜山、橫濱行　福州丸　二月七日　午後四時出帆
潮州丸　一月廿八日
△○大連直行　潮州丸　一月廿四日　正午出帆
福州丸　二月一日
○滿津、浦潮行（元山出帆）　久丸　一月廿六日　午後二時出帆
北丸　二月八日
○上海、芝罘、打狗行（大連出帆）　北丸　一月廿五日　午前四時出帆
湖平丸　十二月一日
安
御注意　○印は朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との聯絡切符發賣仕候　◎印は本船出帆前一時間迄發賣仕候　×印は可成一等客御斷り　△印は二等客御斷り
仁川切符發賣所　大阪商船會社仁川支店　電話一二〇番、五五〇番
京城切符發賣所　內國通運會社支店　電話七八〇番
京城切符發賣所は朝鮮各港沿岸各港行船客に對し當分の間門司より五割引を以て聯絡乘船切符發賣仕候

朝鮮郵船

（仁川出帆）
京畿丸　一月廿三日
錦江丸　二月二日
全羅丸（仁川より釜山各港寄港）
黃海丸　一月廿七日
咸鏡丸　二月六日　釜山發
穩城丸　一月廿四日
昌平丸　二月一日
鏡城丸　一月廿八日
初慶丸　一月廿二日　元山發（元山より各港經由雄基行）
平壤丸　月　日　元山發
忠清丸　月　日　元山發（城津、清津、浦鹽行仮潮釜山經由門司）
永興丸　毎月廿八回　元山發（北久味、五島浦行）又は長崎延長
益德丸　一月廿二日　釜山發（甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行）
江陵丸　
襄陽丸　毎日　（釜山浦項）發（長生浦、方魚津寄港）
三浦丸　一月廿一日　釜山發（長承浦、巨文島、濟州島、木浦經由）
海州丸　巨濟丸
統營丸　慶寶丸　毎日　釜山發（各港經由麗水行（三日目一回木浦行））
順天丸　三日目毎　木浦發（各港經由順水行麗水より慶山行に接續）
慶興丸　一月廿三日　木浦發（各港經由濟州島行（四回））
公州丸　一月廿一日　木浦發（南多島海列島行（月三回））
公州丸　一月廿六日　木浦發（各港經由濟州島行（東廻））
金州丸　一月廿五日　仁川發（海州龍各港經由、德洞又は白翎島行）
江原丸　一月廿六日　仁川發（芝罘、大連、青島行）
麗水丸　一月廿三日　仁川發
晉州丸　一月廿八日　仁川發（各港經由木浦行）
錦江丸　毎日午前　仁川發
南陽丸
平安丸　一月廿四日　群山發（江華島、喬桐島、海州行）
一月廿八日　若松發（往航 大黑山、木浦、門司、若松行／復航 門司、木浦、群山行）
鐵道及び外船と荷客運帶輸送の便あり、詳細は本支店、出張所、代理店、荷客取扱店に御照會願候
京城南大門驛前　京城荷客取次店　松原運送店（電話一二七〇番）

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戶大阪行
秀吉丸　一月廿五日後四時出帆
大有丸　一月廿七日後四時出帆
神代丸　一月廿二日後四時出帆
蛟龍丸　一月三十日後四時出帆
君が代丸　月　日後四時出帆
仁川海岸通二丁目　電話五十九番　高杉回漕部